1958年3月17日第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）第11巻第9号　1967年9月1日発行

聖徒の道

9

VOL. 11　No. 9

聖徒の道は
私たちが真理を知る「てだて」であり
私たちの心と心がかよう道です
あなたの霊の進歩のために
あなたの信仰のかてのために
お役に立つ本であればと思います

予言者のことば
あなたを聖壇に導いた愛……2
九十四回目の誕生日を
お迎えになる大管長……5
二つの神殿が計画された……8
MIAリーダー……9
扶助協会レッスン……13

あなたを聖壇に導いた愛

デビド・O・マッケイ大管長

私は結婚の聖壇に進む多くの夫婦が、結婚式をコートシップ（相思想愛の時代）の終りと見なしているように思います。家庭生活の重荷を分ち合うとき、暖い感謝の言葉、ていねいな行動が甘い婚約時代よりも、もっと有難いものであることを忘れないようにしましょう。

式後の毎日の家庭生活に於て生ずる試練のときに〝有難う〟〝ごめんなさい〟〝どうぞ〟などの言葉が、あなたを聖壇に伴った意味を永続的にするのであります。

結婚式後の幸福に貢献する三つの考え方をよく心に留めておくべきであります。

第一は忠実さであります。夫たるあな

たはあなたの最愛の妻以外の如何なる女性にも注意を向けるべきではありません。そして妻たるあなたの義務は、あなたの夫に尽すことであります。あなた方は共に手をとって無敵のチームとなって家庭を建設するのです。常に聖壇でなした、大いなる聖約に忠実でありなさい。

第二は自制であります。小さなことがあなたをいら立たせ、あなたは、性急な鋭い言葉を放ち、大声を出して、妻の心を傷つけるのであります。私は自制して言葉を慎む寛容さが家庭の幸福と平和を助ける徳と知っています。もしあなたが傷つけられあるいはあなたをつまずかせるものを見たとしても、鋭い言葉を吐かないようにしなさい。まもなく、あなたは鋭い言葉を吐かなかったことをまた衝動にかられた行動をしなかったことを喜ぶでありましょう。その結果は家庭に於ける愛と平和であります。

第三はあなたの子供さんたちに、ほんの少しばかりよりていねいにすることです。私たちの天父が男と女に与えて下さる賜で、もっとも貴重な永遠の生命に次ぐものは子供たちであります。すべての子供が持っている、三つの根本的な権利があります。尊ばれるべき名誉、保護されている安心感、及び進歩の機会であります。家庭はすべてこれらの中心であります。子供が自制から生ずる確信と強さを育くものはそこであります。子供が他人の権利を尊ぶことを学ぶのはそこであります。人が真の幸福は自然の法則と社会生活の規則に従うときに得られると言う意識を先ず育成するのは両親の教育の行き届いた家庭であります。両親がその子供たちを尊重し子供たちがその両親を尊敬し、お互にいんぎんに相対するならば家庭は誠に立派なものとなるのであります。

忠実、自制、ていねい

子供も、青年も、両親も、若い人もまた若い気分の人も共にすべての人が、最上最大のまたもっとも楽しい幸福な人生を過すために、これらの徳を身につけるべきであります。私たちは皆そのように資格づけられているのです。けれども世人は最上のすばらしい人生は動物的な感情及び傾向に従うことから、もたらされると誤解しているのであります。それは真実ではありません。

もっともすばらしい人生は誠に霊的に価値あるもの、美的情操の豊かなもの人生の美しいものに従うことによってもたらされるのであります。もっともすばらしい生涯は、私たちの主、救主イエス・キリストの言葉に従った生活であります。

これが私の皆さんに対する証であり、私は皆さんが御自身の生活によってそれを証明されるように招待します。

マッケイ大管長とマッケイ姉妹　1967年1月2日撮影

1967年4月撮影

九十四回目の誕生日を
お迎えになる大管長

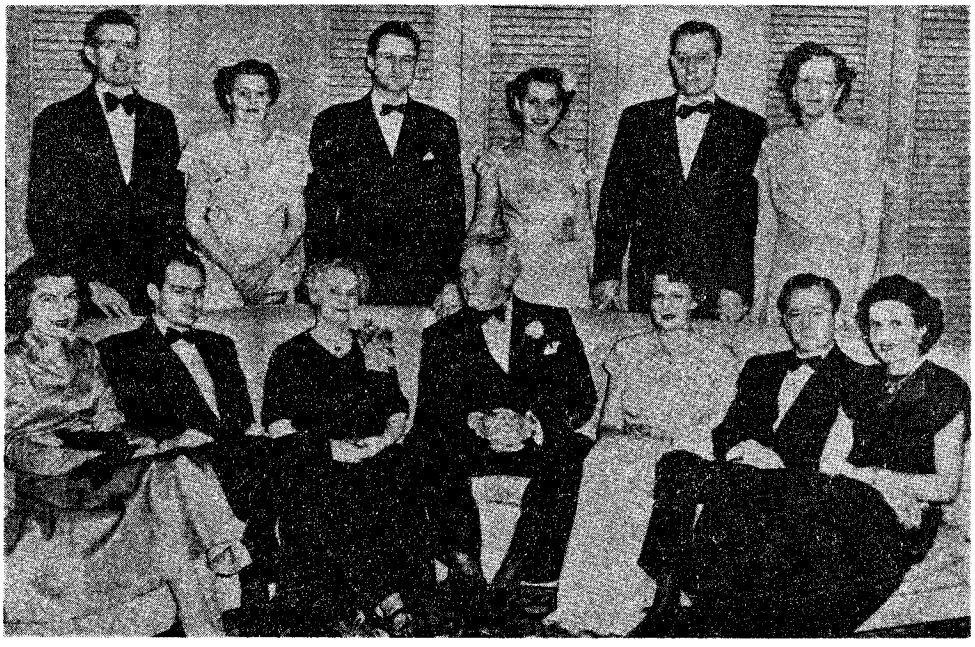
主は我らの先祖アブラハムと会見したもうて、普通人間に見せられない多くのことを、明して見せたもうたが、これについてアブラハムは「さて、主はわれアブラハムに、この世に先だちて組織されたる英智たちを見せたまいたりき。而して、これらすべての者の中には**高貴にして偉大なるもの多くありたり**。神、これらの霊を善しと見たまい、これらの霊の中に立ちて云いたまえり。これらの者を**わが統治者となさん**、神、霊なりしこれらの者の中に立ちてこれを善しと見たまいたればなり。而して、神われに云いたまいけるは、アブラハムよ、**汝はこれらの者の一人なり、汝は生れざる前に選ばれたり、と**」（アブラハム書第三章22～23節）と記しています。

約一世紀前の一八七三年九月八日にユタ州のハンツヴィルで雄々しく生ぶ声をあげられ、この九月で九十四回目の誕生日をお迎えになる、我らの敬愛するデビド・O・マッケイ大管長についてもアブラハムと全く同じことが云えるのであります。マッケイ大管長が十二才になられた時、教会の大祝福師はその手を大管長の頭に按かれ、「主の眼は汝の上にあり、……若き時代に汝は責任ある地位につくべく備えねばならぬ……汝は広く世界を見聞し……散乱せしイスラエルの集合を助けるに違いない……汝はその兄弟たちと共に評議員会の席につき、……且つ汝は民を管理するに違いない……」と祝福し、予言したのであります。

以上の祝福は今月までに、ことごとく実現しているのであります。マッケイ大管長程広く世界を旅し、散乱しているイスラエルの集合を助けられた大管長は他にないのであります。今日大管長は殆んど毎日のように、大管長会の方々や、他の大幹部とお会いになって仕事をなさっているそうであります。大管長にお会いになる方々は、大管長がきわめてお元気で百才までも生き永らえたい、と、ユーモアを交えてお話になるのを聞いて、勇気づけられるそうであります。この一年間、大管長にとって最も重大な出来事の一つは、ユタ州のオグデンとプロボーに神殿を建立する、ということを発表なさったことであります。

大管長として在任中に献堂された神殿

⇦ 若き日のマッケイ大管長と姉妹　1949年4月撮影



マッケイ大管長の家族　一九五一年撮影

の数は実に五つにものぼっているのであります。私たち日本の聖徒も、大いに努力して、一日も早く、この日本の地に予言の如く神殿を、建立することができるよう、大管長の誕生日を心からお祝いしその御健康と御多幸とを祈りつつ決意を新たにする必要があると思います。

最後にこの偉大なる予言者のことばを一部分ではありますが、もう一度、共に味ってみたいと思います。

☆忠実であることが、あらゆる進歩になくてならぬ原則であることは本当である。それは霊の進歩にだけでなくてあらゆる進歩にもなくてならない。人間の進歩になくてならぬのは忠実の原則について自由意志の原則である。

☆人生の真の目的は肉体の享楽や、富の獲得よりもむしろ霊能の発達にある。

☆よい友達を選んで、その友達の中から此世から永遠にわたり連れ立って行きたい人を見つけなさい。

☆若い人々よ、もしもあなたが、あなた自身のうちにある霊を強くするという理想を実現するために、自己を征服して人生の真の目的を達成したいなら、わたしはあなたに克己の徳を推せんする。

☆誘惑を考へたこともない人に誘惑は来ない。いつもあなたの思いを清らかにしておきなさい。そうすれば、誘惑の来たときそれに抵抗することはたやすいであろう。

☆「まず神の王国を求めよ」ということは、福音の原則を第一にして、あらゆる他の目的も追求も二の次にせよという意味である。神の王国の民の第一に為すべきことは模範的生活を営むことである。

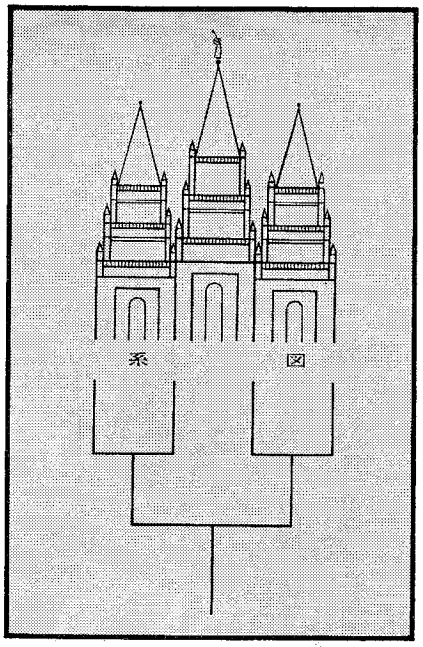
☆真の幸福（を得ること）の秘訣は、持つことにあらず在ることであり、所有することにあらず楽しみを味わうことである。真の幸福とは、心が心自身と平和な状態にあるときの心の暖かいかがやきである。人間は自分の幸福を自分でつくり出すものである。真の幸福とは高い理想の生活をしたときの生活から発する芳香である。

二つの神殿が計画された

教会ニュース編集員
ヘンリー・A・スミス

ユタ州に二つの新しい神殿を建設するという大管長会の提案は、神殿の建てられるプロヴォとオグデンで、月曜日に開かれた集会で五十三のステーキ部長会によって心から支持されました。

この提案の最初の発表は二つの集会で同時にされました。プロヴォに於ける、合計二十八の部長会は、その市に於ける神殿の計画に全面的に協力することを誓いました。同様に月曜日の午後遅く、オグデンに集った二十五のステーキ部長会は、熱狂的に完全な支持を約束しました。



集会はデビド・O・マッケイ大管長の承認の下にヒュー・B・ブラウン副管長及びN・エンドン・タナー副管長、司会の下に開かれました。ジョセフ・フィールディング副管長もまたオグデンの集会に出席して、短いお話をしました。

同様に教会建築委員会のマーク・B・ガルフ会長及びフレッド・A・ベーカーも出席参加しました。

それぞれの集会に於て神殿を建てる場所を選択して大管長会に推薦するために建築委員会と協力するステーキ部長の特別委員が任命されました。両市の集会でプロヴォとオグデンに於けるいくつかの可能な場所が討議されました。大管長会の提案は一九六六年度に教会の神殿の儀式の五十二パーセントにのぼるソルト・レーク、ローガン及びマンタイの神殿への圧力を緩和するものであります。二つの集会でローガンとマンタイの神殿増築計画は三百万弗から四百万弗近くかかりかつ二つの建物の建築美を破壊するであろうと説明されました。オグデンとプロヴォに於ける二つの神殿は各々二百五十万で建てられるであろう。

この二つのステーキ部長のグループに、教会に於て神殿を必要としているところは、その他にもあったけれどこの二つのユタ州の新しい神殿がもっとも多くの人に奉仕するであろうと、現在に於ける最上の申込みであったと説明された。この二つの神殿地区の教会の会員たちは将来その額が決定されるであろうところの建築分担額を受け持つという諒解の下にステーキ部長たちによる支持と協力が誓われました。

現在の地区別会員数は次の通りであります。

ソルト・レーク神殿地区四九三、四七三
ローガン神殿地区　一五九、六一四
マンタイ神殿地区　九三、四六六

二つの新しい神殿地区ができると次のようになります。

ソルト・レーク神殿地区三七〇、九六九
ローガン神殿地区　八〇、六三八
マンタイ神殿地区　六〇、七七一
オグデン神殿地区　一一五、七八〇
プロヴォ神殿地区　一一五、八九一

プロヴォ神殿地区に出席した、新しいプロヴォ神殿地区に入ると思われるステーキ部は、アルパイン、アメリカンフォーク、BYU第一、第二、第三、第五、第六、第七、及びイングリッシュ諸ステーキ部、イースト・プロヴォ、イースト・シャロン、コロブ、リーハイ、ネボ、オレム、オレムウエスト、パルミラ、プロヴォ、サンタクゥインーチンティク、シャロンスプリングヴィル、スパニッシュ・フォーク、チンパノゴス、ユタ、ワサッチ、ウェスト・シャロン及びウェスト・ユタ、諸ステーキ部であります。

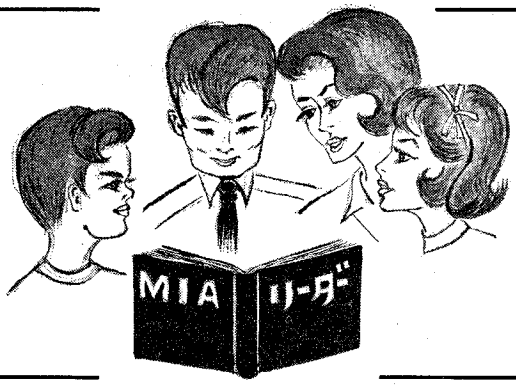
新しい神殿の場所を検討するように指名されたプロヴォ委員は、ベン・E・ルイス、東シャロンステーキ部長、G・マリオン・ヒンクリー西ユタ・ステーキ部長及びフレッド・L・マーカムユタステーキ部長でありました。

次のステーキ部長会はオグデン神殿集会に含まれました。

ベン・ロモンド、ベン・ロモンド・サウス、ボックス・エルダー、ブリガム・シティ、クレヤ・フィールド、イースト・オグデン、ファルウエスト、ケイスビルレイク・ヴイユー、レイトン、ロリン・ファー、モルガン、マウント・オグデンリヴァデイル、ロイ、ノース・ロイ、サウス・ボックス・エルダー、サウスオグデン、サンセット、ワシントン・テラスウェバー及びウェバー・ハイツ

オグデン場所検討委員会は、スコット・B・プライス、東オグデン・ステーキ部長、フロイド・D・フォウワーズ、レーク・ヴィユーステーキ部長、ケース・W・ウィルカックス、ウェバー・ハ

（12頁に続く）



伝道部MIA スポーツプログラムのあり方

神田治

全国MIAスポーツ大会も一応、目的を果して終りました。参加人数、競技種目、競技運営、日種、また地方から参加する方の費用問題など色々な課題も与えて終りました。しかし、そこに於て発揮された熱情は決して無価値なものではありません。この大会のために力を注いで下さった多くの人たちには感謝に絶えません。特に地方部のMIA関係の方、支部のMIA組織の方々、本当に御苦労さまでした。

私たち伝道部のMIA役員は大会後、各支部に於てスポーツプログラムが熱を帯びてくることを期待していますが、いかがでしょうか。

スポーツ、その種目が何であろうとも一朝一夕には上手になるものではありません。回を重ねることにより、少しづつ前進し、ときには停滞せざるを得ないこともあり、それを越えてこそ、また歩を進めることが出来ます。今度の大会でももわかるように、私たちにはまだまだ「卓球」でも「バレーボール」でも「バスケットボール」でも満足する技術は認められません。ということは私たちにはまだ数段の進歩する余地があり、研究する必要があり、また楽しみも残っているのであります。私たちはこれからすみやかにそして可能ならすべての支部にスポーツプログラムのための組織をと考えて計画しています。その計画が具体化され、みなさんのところへ示されたときには老若男女を問わず、すべての人々の協力と参加を期待します。基になるのは皆さんです。皆さんの支部であります。もしそうでなければ全国大会を何度開いても何にもなりません。スポーツプログラムの目的とするところは、何回にも述べましたように私たちにはまだ先の方にあると言えるでしょう。この目的に到達するためには、私たちは始めなければなりません。このスポーツプログラムを発展させるには二つの方法が考えられます。第一にそれは定期的に大きな大会を開く方法。このやり方はこの度の全国大会のようなものを開くことであり、もう少し規模が小さくて地方部ごとの大会でもかまいませんがそう言う目標を定めて支部や地方部で練習をするのです。オリンピック大会がその例です。

第二の方法は、各支部が独自にスポーツプログラムを開くことです。先ず皆さん一人一人がその構成メンバーであります。支部単位でスポーツを盛んにしていくのです。最少でも二週間に一度はスポーツの集いを持つことです。これには支部にスポーツ進行係とでもいうべき、スポーツ委員が必要になります。その人がプログラムに基いた指導をし、支部に於けるスポーツプログラムを固めていくのです。両方とも共通点はあります。それはお互いに最後にはその腕と技術を競い合います。両方とも基礎になるのは、皆さん一人一人です。皆さんのMIAであり、皆さんの支部であります。

私はこの二つを合せた、折衷したプログラムをと考えています。

本題は「伝道部MIAスポーツプログラムのあり方」であります。北部極東伝道部に於けるスポーツは種目でいうとおよそ十種目くらいのスポーツ、すなわちバスケットボール、バレーボール、ソフトボール、軟式野球、卓球、バトミントン、テニス、水泳、スケート、陸上競技が適当とされています。アメリカに於ては、初めの三種目にゴルフとホースシューというのが加わります。種目についてはあまり問題にはなりません。日本は南北に良い国であります。そして四季がはっきりしていますので地方別の気候の方がむしろ問題です。

スポーツは万国共通ですからスポーツマンシップやルールについては問題はありません。しかし私たちが行なおうとしているのは教会が主催する教会員のスポーツでありますから、問題となるのは参加する人々がどのような人であるかということです。スポーツに対するあり方と

言うのは、スポーツそれ自体には何も関係はありません。問題となるのはそれを行なう人々の心構えであります。精神が健全であり、参加する人々に利益を与えることが必要で、お互いの技術を練摩でき、スポーツを通して人間を成長させること出来ればそれは十分に役割を果すのであります。

このプログラムに参加している人、しようとしている人、またこれを見守り、管理して下さる人、この自覚と精神を持っていますか？私たちは今その第一歩を踏み出したのであります。ゆえにそれと同様にスポーツに対する私たちの心構えもまた準備し始めなくてはなりません。前置きが長くなりましたが要は私たちはどのようにしてスポーツプログラムを発展させ、正しく成長させるかということであります。こういう精神にのっとって私たちはまず第一段階、すなわち各支部にスポーツ委員を置き、種目を定め目標を決め、人を集めスポーツの集いを定期的に開始することです。こういう指示がもう届いているかも知れません。さっそく活動を始めて下さい。尻切れとんぼにならず、線香花火のようにならないように、無理をしないで確実な方法で計画を推進しましょう。

最後にユース・コンファレンスについて述べたいと思います。私たちはユース・コンファレンスを一九六八年に開催する予定です。一九六六年にスカンジナヴィアの四カ国が一体となり開かれ、最近ではサモア諸島が集って開かれています。日本ではユース・コンファレンスとして、スポーツ大会が開かれるのは初めてであります。これは教会の若い人を中心として、スポーツ、演劇、スピーチ、ダンスそして最後に霊的な集いで幕をおろす。数日間にわたるお祭りみたいなものです。

私たちが計画中のプログラムはスポーツを中心とした三日間ぐらいの大会です。この種の大会を開くためにもみなさま支部のプログラムの重要性を認識することが必要です。いち早く組織と活動がなされ、根をおろし日本中の教会のある支部からその便りが聞かれることを期待してお互いに努力しようではありませんか。

福島支部訪問記と小さな支部のMIAの開き方

島田邦男

七月末頃、昔なじみの石坂晃一宣教師(現在福島支部伝道)より手紙を貰った。

福島支部も日曜日には二十人近くも集るようになったので、八月からMIAを開きたく思うので、ぜひ伝道部のMIA役員か地方部の役員がきてくれないか？と言うことで、小生末熟ながら、その任を受け早速出かけた。

上野から急行で四時間、北へ来るとこうも気候が違うものかと思われた。

人口二十万、何んとなくさびしく感じられる。

マッチ箱のような小さな電車が、街の中をチョロチョロと走っている。

駅から徒歩五分、この電車道路に面した商工会館の三階を借りて、日曜学校、MIAを開いている。

日曜日には冷房は勿論のこと、エレベーターも止ってしまう。

ただし、経費さえ出せば入れてくれるそうだが、十人たらずの会員では支部予算もおぼつかず、僻地教育は大変だなーと思う。

同じモルモンの教会でありながら、真夏でも、寒いくらいの冷房のところで、冷しい顔をしているが、一方では、借家住いの上真夏でも冷房も入らず、わずかな自然の風を窓から迎へ入れ、うるさい電車の音を聞きながら、日曜学校、聖餐会を開く。福島支部を訪問して侘しい気持になった。

しかし現在の東京のどの支部でも、最初はみな借家住いの苦しい時代があったはずである。

やはり、現在は試しの世である。

丁度、人世にも辿わなければならない段階がある。

苦しいときもあるが、楽しい時もある。子供から、一挙に大人にはなれない。

乳くさい幼年時代から、小学生、中学生、そして苦しい受験地獄……。

社会の荒波にもまれ、甘く楽しい新婚時代、そしてやがて親となり老いて、この世をおさらば……。福島支部も人生に例えるならば、やっと乳離れをした幼児から少し物心ついて幼稚園にでも通い始めた頃である。

何んの汚れもなく、妬みもなく、すくすくと育って行く、純真な少年のようだ

安息日の朝の神権会は堀江、早坂、牛坂兄弟と、その他四人の宣教師。

神権者は、執事の早坂兄弟一人だけ、司会からすべて、宣教師が担当。

レッスンは日本語が一番上手な、石坂長老。

日曜学校には常時二十人以上(会員十人と求道者十人くらい)出席するはずであるが、今日はどうしたことか十二・三人しか集わなかった。

二分半の話は宣教師、レッスンはまた石坂長老と石井兄弟がやった。

集まった人数は少ないが皆んな、福音を学ぼうとする意欲はどの支部にも見受けられないものがある。

高校二年生の佐藤姉妹の指揮者、はずかしそうに讃美歌を見ながら、静かに指揮棒を振っている。

しかし他の人たちは、指揮者を見ようともせず、ピアス長老のオルガンに合わせて、讃美歌にかじりついて一生懸命歌

っている。

聖餐会は、食パン一枚を四分の一に切った大きなパンで、大変食べごたえがあった。

（東京の支部のようにあまりにも小さ過ぎて歯と歯の間にはさまったら、どこへ食べたのか分からないのとちょっと品が違う）

聖餐会後、全員に集って貰い、ＭＩＡの開き方に就いて説明した。

例え、どんなに小さな支部でも組織が確立できないときは開くべきではない。「ＭＩＡの手引」に従って組織は五人制（会長二人、副会長二人、書記）を採用する。

まずＭＩＡの会の司会者は会長、副会長、交互に行なう。

短かい活動は、なるべくＭＩＡの役員以外の人か、ときには宣教師でもよい。ＭＩＡに集って何か得たものをここで発表してもらう。

レッスンはＭメングリーナーのクラスと、エンサインロールのクラスに分かれるのであるが、出席人数が十人くらいなら当分の間、一つだけのクラスで、テキストは「教会と私」を使う。

また出席人数が増えてきたら、エンサインローレルのクラスをもうけ「我らは生きる」のテキストを使用する。

各クラス教師は、副会長が、その責任を受ける。（副会長の責任のもとに他の人を任命してもよい）

活動のクラスは、ダンス、音楽、演劇演説に分かれるのが普通であるが、人数にも、部屋数にも問題があるので、活動は行なえる数だけのクラスを設けるとよい。原則的には一定期間、一定のクラス活動を開くべきであるが、毎週違う活動を行ってもよい。

例えば、第一木曜日はダンス、第二は音楽、第三は演劇、第四は演説、第五週のあるときは、何か特別行事を行う。

オープンナイトは、なるべくＭＩＡカレンダーと合わせて行なうようにする。（ただしこういうやり方は特別で小さな支部に限る）できるだけ近い将来には必ず、ＭＩＡのカレンダーにそった活動ができるように頑張ってもらいたいものです。

また何時の日か、今度はＭＩＡに出席したく思っています。

小さな支部が、だんだん大きくなって行くのは楽しみです。

小さな支部、ガンバレ!!

主の恵が豊かにあるように祈ります。

伝道部ＭＩＡ
書記です
どうぞよろしく

稲垣聖子

現在まで数々の責任が与えられてまいりましたが、私にＭＩＡ関係の責任が初めて与えられたのは、三年ほど前のＹＷ会長になった時でした。何かＭＩＡと云えば活発で表面にその存在がはっきり出てしまい、私には到底不向きのものと思い込んでいましたが、そのような考えはモルモンには通用せず、ある日突然にその責任が与えられたのでした。それまで良くいろいろなアイディアが有るものと、当時の役員達に感心していたものですが、私にそのお鉢が廻って来るなど全く考えませんでした。いざその責任を果す時となれば何も解らず、ただＹＭ会長の後をうろうろするだけで数ヵ月が過ぎて行きました。いつまでもそのような状態では居られないと思い、まず表面的活動は、ＹＭ会長に任せ、当時全く不完全であった記録簿の整理から書記と共に始めました。当時の北支部は京浜各支部切っての活発なＭＩＡプログラムが繰り広げられておりましたが、実際活発な活動をしていると云われる公式の記録には全く載せられず、活動は行っていないと云う空白の記録のまま伝道部では本部の方へ送られたとのことです。そのようなことを少しでも無くす為に、まず私に出来ることとして、地方部、伝道部からの指示されるあらゆる事柄を一つ一つ忠実に実行することという方針を立て、当座はそれに専念しました。多くの場合、伝道部、地方部から出される指示は、その支部に於て変えられ、これはこの支部に合わないから、出来ないからと、直ぐ自分達の考えたものと代えてしまうとか、そのままほうり込んでしまうのが常でした。しかし、私はまずその方法を試みることは私達の為すべきことと思い全てその通りに実行してみました。しばらくしますと何事も大変うまく行くようになり提出されるレポートも月始めの一日、二日という早さで完全に提出することが出来るようになりました。それには支部長会、ＭＩＡ、会長会、書記がチームワーク良く行ったが為に出来たことでありますが、それら当時苦しんだことは現在も充分私の役に立っているのです。私がＹＷ会長を務めている間に、ＹＭ会長が三人変りました。私もいろいろ研究している間にＭＩＡというものがだいたい解りかけて来ましたので、今度は毎週のプログラム実行が大変ではありますが楽しみになってまいりました。私にも以前の役員達が考えて行ったいろいろな良い方法が自然に思い浮んで来るようになりました。常に私達は「出来ないということは

ありません。一生懸命やってごらんなさい。神様はきっと良い助け、導びきを与えて下さるのですから」と云う言葉を耳にするのですが、それは確かなことであると云うことが出来ます。

私が会長になって二回目のカレンダープログラムが行われるようになってゆく ある日、また思いがけず今度は地方部MIAの副会長と云う責任を受け、それも多くの方々と共に無事にその責任を果すことが出来ました。今ではすっかりMIAに染ってしまい、その楽しさ、苦しさを数々味って来ましたが、その一つ一つが、私のMIAに関する考えを変化させていったものです。MIAは全て若い兄弟姉妹の為のものです。それに参加してこそ若くて、健全で、強い力が養われることを知ることが出来ました。決してMIAは遊ぶ集会ではなく、巾広い人間を育成する唯一の活動の場であると思っております。貴男も！　貴女も！　誰れでも！　皆んな参加してほんとうに良い充実した高度な集会にして行こうではありませんか、集会がつまらないのは会長会の責任ではなく貴方の責任です。貴方にも楽しくする方法を考えることは出来ます。

主はほむべきかな、
包囲された町のように私が囲まれた時
主は驚くばかりに、いつくしみを
私に示された。
わたしは驚きあわてて言った、
「わたしはあなたの目の前から断たれた」
と。しかし私があなたに助けを
呼び求めたとき、
わたしの願いを聞きいれられた。
すべての聖徒よ、主を愛せよ。
主は真実な者を守られるが、
おごりふるまう者はしたたかに
報いられる。
すべて主を待ち望む者よ、
強くあれ、心を雄々しくせよ。詩篇

本当に今受けました伝道部のMIA書記の責任を感謝致します。表面には今までのように出て行きませんが、今度は全国の方々と共に働くことが出来、喜んでおります。思ったほどこの責任もやさしいものでは無いようですので少々心配ですが、この詩篇の一節は過去八年間に亘るモルモン生活の上に与えられた証詞と常に注意している私の歩んだ道を物語る言葉でもあるのです。この信条により佐藤兄弟姉妹両会長、島田副会長のユーモラスで思いやりのある方々に助けられきっと良くその責任を果せることと確信しています。

（8頁からの続き）

イツステーキ部長、アルバート・L・ボットマウント・オグデン・ステーキ部長及びラウレンス・D・オルピン、ローリン・ファー・ステーキ部長から成立しています。

オグデンとプロヴォに於ける新しい二つの神殿を加えると現在教会で用いられている神殿が計十五になります。そしてユタ州には六つの神殿が存在することになります。

二つの適切な場所の選択は大管長会が検討委員会によって推薦されたものを詳細に検討して最終決定をします。新しい神殿は、現在用いられている小型のものに計画されておりますが高い収容力を持つように目論まれております。

最終決定がなされたら速かに着工されるということが集会で宣言されました。

（28頁からの続き）

隠退した夫婦

私たちは隠退した夫婦は新家庭を始めた二人であって、彼らの財政状態は前に行われたものの直接の結果であることをよく忘れがちです。教会の指導者はしばしば収入のある間にこの特別の目的のために節約や基金をすることによって老後の準備をするよう会員たちに助言しています。もし家族財政計画が注意深くたてられ守られたら隠退してからの年は快適で充分なものとなるでしょう。しかしながらこの同じ原則は適切に調整・適応して隠退という最後の段階にもあてはまるのです。隠退した人々が将来のための節約でなくできるうちに生活を楽しむために、収入を見積り固定支出を計算し日々の支出を計画し余分のお金を使うことは賢こいやり方でしょう。これらは少しも重荷ではありません。なぜならそれは自然に、簡単に行うことのできる生活の型となるからです。生活を始める初期に賢明な財政計画を持ったことから隠退した夫婦の刈り取る実はどのようなものでしょう？

扶助協会レッスン

霊的生治

ロイ・W・ダクシイ長老

教義と聖約

七六課　迫害のさ中における行動のとり方

テキスト　教義と聖約九七章、九八・二三―四八

一九六　年一月

目的　末日聖徒の婦人は理解と許しの心を持って迫害を耐えしのぶこと。

序文

一八三三年七月聖徒に対する迫害がジャクソン郡で始まった。翌月の始め予言者ジョセフ・スミスは主としてミズリーの聖徒に関する啓示をうけた。（教義と聖約九七）彼は何か面倒なことが起り得るとは思っていたが、ジャクソン郡の聖徒に何が起ったのかは知らなかった。この啓示の中で予言者はシオンの地にある多くの教会の会員が福音の真理を見出そうと努めていたこと、また審判のときに主が彼らに慈悲を施し給うだろうと云うことを告げられた。（教義と聖約九七・一―二）

ミズリーにあった長老の塾を管理していたパーレーピー・プラット長老に対し特別の称賛が与えられている。彼はこの召しを成功させるために勤勉に働いた。（同上三―五節）プラット長老は戸外で開かれていたこの塾に出席するためときどきはだしで六哩も歩いた。（パーレーピー・プラットの自叙伝九三―九四頁英文）

聖徒たち全部が主にうけ入れられていたわけではなかった。主は言い給うている。

斧は木の下に置かれたり、およそ、よき実を結ばざる木はことごとくきり倒されて火に投げ入れらるべし。主、われこのことを言えり。

われ誠に汝らに告ぐ、すべてその心正直にして真にへりくだりその精神悔ゆることを知り、犠牲を捧げ、すなわち主なるわれの命ぜんとするあらゆる犠牲を捧げて、以て汝らの誓約を進んで守らんとする者たちはわれの嘉納するところなり。（教義と聖約九七・七―八）

犠牲

犠牲にはいくつかの意味がある。しかし九七章に最も関係のあるのは胸に抱き、あるいは望んだことを捨てることである。聖徒に要求される犠牲はあらゆること――必要とあれば生命そのものさえ捨てることを意味する。（同上九七・一三―一五、一〇一・三五―三八）主に嘉納せられるとは主が人の行いをよいと認め給うことである。しかしこの状態をいつまでも持続させるためにはいましめに対して間断なき忠実が要求される。

ブリガムヤング大管長が次に指摘されたように私たちがこの世でする犠牲はそれを私たちに与えられる祝福の大きさに比べれば何んと些細なるに足りないものなのだろう。

さて、神の御子の原則を理解している長老たちの皆さん、地上に神のみ国を建てるのを手伝うためにあなた方は何も捧げず、何もなさず、何も犠牲にしていないのだろうか？　ある人は言う、「私は神のみ国を打ち立てるために主が私を助けておいでになることは何でもし、また私の力で出来ることは何でもするだろう」と。また他の人は云う、「私は私の全財産を犠牲にするだろう」と。実際に驚くべきことである。あなたは自分の所有する財産というものは束の間も支配する確信をもつことの出来ない影のようなものであり、または日の出前の朝露のようなものであることを知らないのですか！　それを支配するのは神の摂理の目に見えぬ御手である。率直に云えばあなたは何を犠牲にしないかと云うことになる。聖徒はあらゆることを犠牲にする、しかし厳密に云えば、それに関してはいかなる犠牲もないのである。もしあなたが百万の富を得るために一銭を払うとしたら！　一つの世界を得るために手に一にぎりの土を与えるとしたら！　終ることなき永遠を通じて存在し、住み、繁栄し続ける栄光ある住家を得るためにこの世の使い古した家を手放すとしたらそれは犠牲と云えるだろうか！　いかにも犠牲とは云えない。（ジャーナルオブ・ディスコース一・一一四）

クラス討論

福音の中で要求されている犠

牲は義なる人々に与えられる祝福に比較すれば取るに足りないものであると云うことを討議しなさい。

ジャクソン郡の神殿

ミズリー州ジャクソン郡に神殿が建てられるべきであり、一八三一年八月三日予言者ジョセフ・スミスによってその地所が献納されたと教えられている。（教義と聖約五七・三）九七章にはこの神殿を建てるよう命じられたことが出ており、そのために入々に犠牲が要求されたのであったが、何よりもその目的は教会の会員の救のためであった。神殿は感謝を捧げるべき場であり、教えを授ける場でもあり、会員が神のみ国に関するあらゆることに於いて完全にされるべき場であった。この完全は既に授けられた鍵を通じて福音の原則と教義を理解することによってもたらされる。（同上九七・一〇―一四）このいましめを履行しこの神殿の建物を神聖に保つことによって、主のみ前に行くことの約束が与えられたのであった。そうすることによってこの神殿で心の清い人々は神を見ることができたであろう。

クラス討論

私たちがいましめを守るのを助けるために、神殿はどのような場を持っていますか？

もしシオンがこのことを行わばもし聖徒が九七章にあるように彼らの責任を忠実に果したならばシオンの教会に大きな祝福がもたらされたであろう。シオンは偉大なものとなり、栄光に充ち繁栄しただろう。シオンは諸々の国民によって崇められ、決してその場所から移されることはなかったであろう。何故ならそれは神の在し給うところであったから。これらすべてのことはシオン即ち「心の清き者」がいかによくいましめを守るかにかかっていた。九七章の啓示が与えられたとき、聖徒はジャクソン郡で既に迫害を受けていた。そしてそこを立ち退くようさもないと殺されると云う命令を暴徒から受けていた。主はこのような立場をよく御存知であったにもかかわらず、もし彼らが主の命じ給うた通りに何事も行うならばシオンは贖われるだろうと約束し給うた。

さて見よ、もしシオンにしてこれらのことを行わばシオンは栄え……

故に誠に主かくの如く云う、シオンよ喜べ、そはこれこそシオン即ち「心の清き者」（教義と聖約九七・一八、二一）

多くの人々は心の清き者であろうとする挑戦に応じたが、それはシオンの買戻しの祝福を保証するほどそのときは充分な力ではなかった。予言された審判の先手を打つためには何人の人々がこのいましめを守らねばならないのか？　終りの日にこの世に下される審判に関して、ブリガムヤング大管長はもし神の怒りと審判が末日聖徒の上にくるとしたら、それはその大部分の者が主を離れるからである。もし十分の六、あるいは四分の三の会員がいましめを守るならば審判は彼らの上に下されることはないであろうと云われた。（ジャーナルオブディスコース一〇・三三五―三三六英文）

シオンの意味とその適用を今まで既に述べられてきたことに充当してヤング大管長は云われた。

私たちは自分の好きなようにシオンを作ることができ、あるいはバビロンを作ることが出来る。このシオンについては私たちは思うままのものを作ることができる。人はシオンを作ることができる。彼らは彼ら自身の内に天国を作ることができる。人々がここに集るとき、彼らは「私はどこに行こうと常に心の中に溢れんばかりのシオンの精神、献身的な心を持ち歩く、これは悪の心を抑制する手段である。何故なら私の心が悪を抑制するからである。」と云う確固不抜の精神を持って彼ら自身の中にシオンを作ろうとの決意をもって来るべきである。あなたはこのような方法がシオンを作るのだと思いませんか？（同上五・四）

クラス討論

シオンを作ると云うことが個々の家族や家庭にある私たちにどのように適用されますか？

聖約されたシオン

一八三三年にジャクソン郡にあった聖徒たちは今日世界中にある聖徒と同じようにシオンをたてるための契約の下にあった。しかしこの契約は彼らが心の中にシオンの精神をもつことによってのみ成就されることができた。（教義と聖約六・六）この目標を達成するために、あなた方は正義の敵に対して常に用心しなければならない。ステフェンエル・リチャーズ副管長は現在の世界は「自己満足で利己的で唯物的」であるが、シオンの哲学はけんそんである。それは卑屈ではなくて神の統活権を心から喜んで認め神の摂理を信頼することであると云うように分類された。リチャーズ副管長は云われた。シオンは今日、四方八方から攻撃されている。この攻撃は個人の道徳的潔白に対する私たちの概念の敵であり、家庭に於いては家族の愛や和を削減するものである。私たちのこの時代の重大な特色は会員間の無関心と無頓着である。しかし乍ら、いくらかの人々がこれらのサタンの攻撃に屈するにもかかわらずシオンは残る。だが自己満足を抱いている人々は助けと慰めを与える大きな祝福である神のみたまを享受することは出来ない。（大会報告一九五一年一〇月一一〇―一一七頁英文）

聖徒は主の警告に注意しなかった

パーレイピー・プラット長老は彼の自叙伝の中で次のように書いている。ジャクソン郡の教会には多くの忠実な会員がいたが、そこの教会の指導者たちは九七章に含まれている啓示に従わなかった。当時のシオンはシオンの運命の成就をきたらす程には充分忠実な会員から成っていなかったために、「恐るべき裁きはその後の五年間の歴史が示すように最大限に注がれたのであった」（パーレイピー・プラットの自叙伝、デゼレトブックカンパニイ一九五〇年九六頁英文）この期間中に聖徒はミズリー州から追放された。

末日の裁き

悪人の上にくる筈の裁きに関する次の聖句はキリストの再臨前のときに適用される。（大会報告一九一七年一〇月四四―四五頁、スミス・ジョセフ・フィールデング、人間の進歩四七八頁）

見よ、みよ、報復は神を畏れぬ者たちの上に旋風の如く速かに来るなり。而して、誰かよくこれを免れんや。

主の責罰は夜となく昼となく来り、またその風説はすべての人々を悩すべし。誠にそは、主の来るまでとめらるることなからん。

そは主の憤り、人々の憎むべき行為とすべて人々の邪曲なる業に対して燃ゆればなり。

一八三一年に与えられた教義と聖約に対する主の序文の中に地より平和の取り去られるときがくると云われている。（教義と聖約一・三五）南北戦争は近代の戦争を始める口火となった。（同上八七・一）教義と聖約の注釈は次のように述べている。

南北戦争は一九一四年の世界大戦にまで至らせた一連の争いのただ一つの口火となったものであった。これは注目すべきことであった。何故なら一九世紀の中頃以来、二十世紀には戦争が起こらないだろうと云う希望が許される程、はっきりと世界に平和な動きが仮定されていたからである。（五三六頁）

南北戦争中はジャクソン郡の地域は侵入され、土地は荒らされてしまった。（ビー・エイチロバーツ、神の新しい見証者第一巻二九八―二九九頁英文）邪悪の故にこの世の人々は主の怒りと憤りを覚える筈である。この審判即ち主の懲らしめは主の再臨のときまで続くだろう。

シオンもし……守り行わば免れん

人々の邪悪の故に一般に世界の上に特にジャクソン郡の上に約束された破懐に関する文脈の中でこの啓示は「シオン」として知られている教会の会員に対してその話を向けている。

さりながら、シオンもしわがすでに命じたるところを何にてもすべて守り行わば免れん。されど、シオンもしわがすでに命じたるところを何にても守り行わざるときは、わが激しき苦悩疫病、災、剣、応報および焼尽す火をもて、すべてシオンのなしたる業に従いてこれを報いん。（教義と聖約九七・二五―二六）

唯一つの安全な道はいましめを守ることによってのみである。十二使徒のメルビン・ジェー・バラード長老は次のように云っている。

……この教会にバプテスマを受けて入った私たちが主のいましめを無視して、どうして主の災から逃れようと望むのですか？ 私たちの中には知恵の言葉を守らない人たちもいれば、十分の一を払わない人もいる。私たちは私たちの信仰に徳行をつけ加えることにより、更に徳行に知識を、知識に節制、忍耐敬虔、兄弟愛をつけ加えることにより自分自身を清くしようとしていない。真理を知り、警告を受け、神のみ言葉を信ずると証する私たちが主のいましめを守らないでどうして災を免れることを主張するのか、また災から免がれることの出来る筈があるだろうか？（大会報告一九一九年六月八九頁英文）

一方もし末日聖徒がいましめを守るならば主は教会とその時代の人々の上に祝福に祝福を重ね与えると約束をなし給うた。（教義と聖約九七・二七―二八）

九八章の背景

九七章が与えられ、ミズリーの暴徒が聖徒を滅そうとし始めてから一七日目に主は聖徒たちがどのように身を処すべきかに関する情報を啓示し給うた。

聖徒たちは苦難に耐えるように命じられた。彼らの祈りはきかれ、それらは間もなく実現された。主はまた「汝らのこれまでに悩まされたるすべてのことは、ついには皆汝らのためとわが名の栄光のためとなるに至らん」と警告し給うた。（同上九八・三）

主が古代の人々に命じ給うたことを聖徒が知ることが出来るよう、また今日、私たちに何が期待されているかを知ることが出来るよう、この啓示の中には三つの律法が説明されている。

報復の律法

三つの律法の中の第一は二三節から三二節までの間に述べられている報復の律法である。この聖句は教会の家族は悪口や他からの危害に忍耐強く、それが二度、三度であっても耐えるように要求している。しかし彼らが四度その罪をおかすならば彼らをいましめるべきであり、警告が与えられる筈である。また必要とあれば彼らはそのなした業によって報いをうけるべきである。しかし乍ら四度目の危害にも忍耐強く堪えるならばその

報いは更に増大されるだろう。迫害の下でのこの忍耐の教義は山上の垂訓の教義である。(マタイ五・二一―二二、四三―四四)

戦いの律法

次の律法は戦いの律法である。先づ最初に私たちは昔、主がその民が戦うことの出来るときを告げ給うたことを理解すべきである。そしてそれに従って戦ったとき、彼らは正当とされた。戦いはそれ自体は人生の目標ではなかった。もしある国民が神の民に向ってくるならば和を請うべきである。そうした後もし敵がこの和の申出でを受け入れず二度、三度とそうするときは、主は彼らに戦うよう命を下し給う。この約束はその子子孫孫、三、四代のすえにまで及ぶ。(教義と聖約二八・三三―三八)古代のイスラエル人は彼らの平和の申出が拒否されるまでは戦に出なかった。(申命記二〇・一〇同じく二・二六―二九)

モルモン経はこの九八章に与えられている警告に一致する戦争の概念を私たちに与えている。(アルマ四八・一四―一六)

ニーファイ人はもし彼らが主のいましめを守るならば主が彼らに戦うことを命じ給うにもかかわらず、戦に於いては彼らがあらゆることを勝利にみちびくようにしなくてはならないと信じていた。モロナイは全国の統治者ペホーランがレーマン人と戦うための援兵や武器、食糧を送ることをさし控えたことを非難して次のように彼に手紙を書いた。

汝らは、われらが安座して何もせず主がわれらのために備え給うた手段を使わない間にも主がわれらを救い給うと思うか。(アルマ六〇・二一)

一八三一年に採択された公式の所信はこの原則に関する教会の立場を述べている。

われらは信ず、すべての人はその固有不動の権利を政府の法律によりて保護せらるる間、その属する各自の政府を支持し擁護すべき義務あり。されば、かかる保護の下にあるあらゆる国民にして、治安の妨害、謀叛などを為すは妥当にあらず。故にかかる輩は罪に従って処罰すべきなり、而してすべての政府は公共の福利を保証するために、政府の判定に於いて最も善く計画せられたる如き法律を制定する権利を有す。されどまた同時に良心の自由を神聖に保つべきなり。(教義と聖約一三四・五)

赦しの律法

九八章の終りに赦しの律法が示されている。この律法はこの啓示の中の他の二つの律法の要素を含んでいる。一人の人または国民が他に対して繰り返しおかした罪は許されるべきである。このような許しを実行することは相手が悔改める限り続けられるべきである。しかし乍らもし彼らが悔改めないときは三度目までは忍耐強く耐えるべきである。もし彼らが四度その罪を犯すときは彼らを許さずに、これらの証を主の前に持ってくるべきである。彼らは悔改めてそれを四倍にして返すべきである。しかしながらもし彼らが悔改めないときはその子供に応報が与えられ三代四代の先まで主の怒りを受けるべきである。もしその子、孫たちが悔い改めるならばいかなる罰も彼らの上にかかることはない。(教義と聖約九八・三九―四八)

先に指摘されたように一つの国民は自ら攻撃に出て戦を始めるべきではない。しかし向ってくる者たちに対しては自分たちを防衛する権利がある。チャールズ・ダブリュ・ペンローズ副管長は流血を好み破壊を望むことに対して末日聖徒に警告を与えられた。(大会報告一九一七年四月二〇―二一頁英文)戦争を避けるための努力はなされるべきである。しかしもし争いを防ぐように努めた後に戦争に引き入れられたときは、このレッスンの前の方に指摘されているように勝利をもたらすようにあらゆる努力をなすべきである。

考察のために

末日聖徒の婦人としてあなたはその子供たちに勤勉であるようまたお互のため、教会のために喜んで犠牲になることをどのように教えますか?

霊的生活

ロイ・W・ダクシイ長老

教義と聖約

七九課 福千年

テキスト 教義と聖約 一〇一章・二三―四二

一九六 年四月

目的 末日聖徒の婦人は福千年の統治の期間に参加するために個々の準備をなすこと。

序文

一〇一章の始めの方で主は聖徒たちがその罪のためにミズリー州ジャクソン郡に於いて迫害されると仰せになった。聖徒らはそのゆずりの地から追われたと云う事実にもかかわらず、主は彼らが再び戻って来てシオンの荒れたる地を築き上げるだろうと仰せになった。(教義と聖約一〇一・一七―一八)その間聖徒らはシオンの力が増大されることが出来るようにステーキ部に寄り集っていた。一八三三年聖徒らがジャクソン郡を去ってからステーキ部の数は何度も

増加した。今これを執筆しているときの教会のステーキ部の数は四百を越えている。これらの「聖き場所」は終りの日に地球にふりかかる災難の嵐からの避難所となる筈である。（同上二〇―二三）

キリストの再臨

聖徒たちはステーキ部にシオンを打ち立てている間に救主の再臨のために用意をする筈である。主の住み給う天とこの世の間を敵っている幕は取り去られ、あらゆる生物は共に彼を見るであろう。（同上一〇一・二三）

クラス討論

あなたは何故主の再臨が実際の出来事であると信じますか？

キリストの再臨は文字通り骨肉の御方としてお現われになるのである。キリストがその使徒たちに最後の教えをされた後天に上げられたとき、彼は御自身が天に上ってゆくのを彼らが見たと同じ有様でまたくるであろうと約束し給うた。使徒行伝一・一一）イエスは復活し彼の霊はその死後墓におかれた彼の肉体と再び結合した。（ルカ二四）イエスは今、彼が天に持ち行かれたその同じ体を持って天にあってみ位についていい給う。（教義と聖約四九・六、一三〇・二二）一八三一年三月七日主は彼が大いなる能力と栄光を持って清き天使らと共にくるだろうが彼を油断なく待っていない者は断ち切られると仰せになった。（同上四五・四四）

私たちはキリストが一人の御方としてお現われになることに関して聖典を文字通りにとると同じように私たちは彼の再臨に伴って大いなる破壊があることを覚えるべきである。彼の栄光の輝きは太陽の輝きにさえ勝るだろう。（同上一三三・四九）悪を行う者たちはその行いに従ってさばかれるために霊界に入るだろう。（教義と聖約二九・九―一〇、一三三・六四、七六・一〇六―一一二）

聖典にはキリストが再臨し給うときの悪しき者の滅亡は世の終りにあると言及されている。（高価なる真珠ジョセフ・スミス一・四、三一、予言者ジョセフ・スミスの教え、編集者スミス・ジョセフ・フィールデング一九五六、一〇〇―一〇一頁）そのときが訪れるときにキリストの千年間の統治が始まるのである。（教義と聖約二九・一〇―一一）聖典には地の状態を新しい天、新しい地と言及している。（イザヤ六五・一七、リトル・コンペンデュム、著者リチャーズ一八五―一八六頁〔絶版〕）地球の現在の状態は星の栄の状態であると知られているが福千年の期間は月の栄の状態である。（スミス・ジョセフ・フィールデング救の教義一・八二）信仰箇条の第十条は地球の福千年のときの状態を「楽園」と記している。予言者ジョセフスミスがつけたこの言葉は美しい庭を思わせる。即ち地球はアダムの原罪以前にあったと同じ状態になるだろう。（同上八四―八五頁）

日の栄に聖化された地球

地球は死すべき人々の居住地としての目的を満たした後、聖化として知られている変化を更に経験するだろう。それから地球はウリムとトミムの本質をもったガラスの海のようになるだろう。これにより、日の栄に住む人々にとっては、それより下位の王国に関する知識は明らかとなるだろう。（教義と聖約一三〇・九）この状態は福千年の間の状態と同じではない。

福千年に住む人々

教会の会員の中には福千年の期間に地球上に住む人々について誤った考えを持っている人がある。この期間には死すべき体をもった人々が住むのである。聖典はキリストの再臨のときにおこる復活について話し、人々がキリストに会うために空中に挙げられると表示している。それは死すべき人々がキリストに会うために挙げられると云う意味ではないし、また主の再臨のときに滅されない人々がその場で復活を経験することでもない。（同上八八・九七―九八）死すべき人間はこの地上に住み私たちが現在生活していると同じように生活するだろう。イザヤは人々がぶどうの実を食べ、家を建ててそこに住むだろうと云った。（イザヤ六五・二一―二三）聖典の中には福千年には子供たちも住んでいると書かれている。（イザヤ一一・六、六五・二〇、教義と聖約六三・四九―五一）

ジョセフ・フィールデング・スミス副管長は現在日の栄の律法を実践する立派な人々は福千年の始めに滅されることなく生きる権利を持つだろうと云われた。それは主の再臨のとき、また主の再臨前の破壊から生き残った忠実な教会の会員だけではない。

……そこには何百万と云う人が住むだろう。カトリック信者もプロテスタントも不可知論者もマホメット信者もあらゆる階級の人々、あらゆる信者もまだ地の面に浅るよう許されている。しかしそれらの人たちはこの世で清い生活をした人であり邪悪や堕落におち入っていない人々である。よい行をすることにより日の栄の律法を守った人たちは云うまでもなく、日の栄の秩序に属するすべての人たちは福千年の間この地上に浅るだろう。

而し乍ら、最後には海水が海の面を敵うように主の知識は地の面を敵うだろう。しかし福千年が始まった後、すべての人々が改宗されるかまたは霊的に退歩するまで福音の伝道は必要であるだろう。この千年間の時の流れの中ですべての人々は教会

即ち神のみ国にくるか、さもなければ霊的に進歩しなくなるだろう。そのときには人は年老いるまで死ぬことはないだろう。（救の教義一・八六―八七）

ジョセフ・スミスにより言及されている「諸々の信者」とは「律法を知らざる民」かまたは異教徒である。（教義と聖約四五・五四）これらの人々は福千年の祝福を享受するだろう。しかし乍ら、もしこれらの人々の中に礼拝にこない者があるとすれば、彼らは「神の裁き」をうけ、最後には地上から滅ぼされねばならない。（予言者ジョセフ・スミスの教え一九五六年二六九頁英文編集者スミス・ジョセフ・フィールデング）これは昔、エルサレムに攻めてきた諸々の国民の中残った人々について予言者ゼカリヤが云った言葉に一致している。（ゼカリヤ一四・一六―一九）

これに反して、すべての末日聖徒が主の再臨前と再臨時に地球をおそう大荒廃に生き浅ると予期されるべきではない。予言者ジョセフ・スミスは云った。

私は人の子の来給うことについて話し、また悪を行う者、信じない者が苦しみを受けているときに聖徒らがあらゆる裁きから逃れるだろうと云うことは偽りの概念であると説明した。何となればあらゆる人は苦しみを受けそして「義しい人は辛うじて逃れるだろう」からである。聖徒たちの多くは逃れるだろう。何故なら義しい人々は信仰により生きるからである。しかし義しい者たちの中の多くは肉体の弱さのためにいろの病気や疫病その他の犠牲になるだろうけれども神のみ国に救われるだろう。病気や死の苦しみをうけるのは彼らが罪をおかしたからであると考えるのは神聖な原則ではない。何故ならすべての人は死をうけるからである。救主は「あなたが裁かれることのないようにあなたもまた人を裁いてはならぬ」と仰せになった。（予言者ジョセフ・スミスの教え、編集者スミス・ジョセフ・フィールデング一九五六年一六二―一六三頁英文）

この千年間の間に地上に住む人々の中に失われた支族がいるだろう。彼らはキリストの再臨時または再臨真近にいつか北の地から帰ってくるだろう。予言者ジョセフ・スミスは終りの日の滅亡は北方の国から失われた支族が帰るための道を備える印となるだろうと云った。（DHC一・三一五）私たちは救主が彼らを訪ねられて福音を教え給うこと、また彼らは彼ら独自の聖典を持っていることを聖典から学んで知っている。（第三ニーファイ一五、一六章）彼らは末日聖徒のところに来てそこで彼らの祝福をうける。（教義と聖約一三三・二六―三四、第三ニーファイ二一・二六、イテル一三・一一）

死

クラス討論

福千年の間に起こる死は現在この世で起こる死に比べてどんな点が違うか？（教義と聖約一〇一・二九参照）

現在この世では愛する人々と死別することは悲しいことであるが福千年の間に死ぬ人々は「またたくまにその身変りて天にあげられその休息は栄光に輝かん」（三一節）とある通りで体は死すべきものから不滅の体即ち復活体に変るだろう。子供たちについては彼らは「罪を犯すことなく育ちて救いに入らん」と云われている。（教義と聖約四五・五八）

動物と人

この千年間の期間は平和の期間として知られている。「而してその日には人の憎しみ、獣の憎しみ、実に一切生くる者の憎しみはわが面の前にあらざらん」（教義と聖約一〇一・二六、イザヤ一一・六―九）サタンの力は取り去られ地には尊敬すべき人々が住み戦いはないだろう。（ミカ四・三、四参照）人々はその武器を平和と生産のための道具に変えるだろう。（イザヤ二・四）その日には主のみたまが非常に豊かに地の上にあるために現在、動物間にある憎しみはなくなり、人と動物の間にも憎しみはなく平和な生活があるだろう。

知識の広められること

この千年間にうける祝福の一つは人を悩ましてきた多くの神秘を理解することである。

クラス討論

主は人の起源に関する知識について私たちに**何を約束し給うたか？**

人と地球に関する知識が大いに増し加えられると約束されている。啓示によって人々は人の創造に関する真理を知るだろう。

実にわれ誠に汝らに告ぐ、主の来り給うその日にはすべてのことを顕したまわん。すなわちすでに過ぎ去りしこと、また何人も知らざる隠れたること、この世の造られたる事物のこと、またこの世の目的、終りなどすなわち最も貴きこと、天上のこと、下界のこと、地の中のこと地の上のこと、また天にあることなどを顕し給わん。（教義と聖約一〇一・三二―三四）

完全な福音の回復の一部として「万物の更新」があるだろうと云うことはこの世の始めから聖なる予言者の口を通して予言されてきた。（使徒行伝三・一九―二一）これらの予言の中に世界の歴史の始めから終りまでを含んでいるモルモン経の版の封じられた部分の回復がある。これらの版は悪しき行、いまわしい行の横行している時代の間は顕わされることはない。しか

し福千年の間に主は万物をお顕わしになる。（第二ニーファイ二七・七、八、一〇、一一、二二）

誠心誠意で求める者には大いなる知識が約束されており、この時代の人々は願うことは何でも聞きとどけられる。（教義と聖納一〇一・二七、一一二・一〇、四二・六八、ヤコブ一・五）この祝福を受けることの出来る原則は八八章の六三節から六五節に書かれている。現在ある人々は福千年にある人々と同じようにみたまが彼らを刺激するものだけを求めるべきである。

福千年の目的

福千年が始まるとき御父の子供たちの中で救をうけない人が非常に沢山いるだろう。人々は真理を教えられ続けそして彼らの自由意志を行使することが出来る。

クラス討論

今日私たちが系図を調べていることは福千年の主要目的をみたすためにどのように私たちの役に立つだろうか？

平和の千年間の統治の主要目的の一つは完全な福音をうける資格のある人々のために神殿での儀式を行うことである。ベールの向う側から使者が来て、霊界で福音を受け入れて神殿の儀式をうける資格のある人々の名前を生ける人々に提供する。ブリガムヤング大管長は次のように表現されている。

……このみ業が完了される前にシオンの山にある大勢のイスラエルの長老たちはもはや外出することをせず神の神殿の柱となるだろう。彼らはそこで食べ飲み眠りそしてこのように云う機会を屢々もつだろう。――「昨晩神殿にある人が訪れた。私たちはその人が誰であるか知らなかったけれども兄弟であることは確かであった。彼は私たちが前に理解しなかった非常に多くのことを話した。彼は記録にのっていない沢山の私たちの先祖の名前を伝えてくれまた何百年もさかのぼって私の真の家系と私の先祖の名前を告げた。彼は私に「あなたと私は一つの家族で縁続きである。あそこにあなたの先祖たちの名前があるからそれをとり記入し、あなたがあなた自身のためにしたようにその人たちのためにバプテスマと按手礼をうけてあげ、誰それを救い誰それ個人のために永遠の神権の祝福をうけてあげなさいと云った。」このことはこの地に住んだ人たちのために私たちがなそうとしていることである。（ジャーナル・オブ・ディスコース　六・二九五）

復活した聖徒

福千年は復活の期間となるから復活した人々が死すべき体の人々と同様に引き続き地上に住むと云うことはあり得ない。キリストは自ら親しくこの世を統治し給う。この問題について予言者ジョセフ・スミスはこう云われた。

……キリストと復活した聖徒は千年間の間この世を統治するだろう。彼らは多分地球には住まず彼らの望むとき、あるいはまたこの世を治める必要のあるときに訪問するだろう。（ＤＨＣ五・二一二）

この統治の間は「裁きは義しく行われるだろう。また無政府状態や混乱はなくなり〝国民はもはや戦を知らなくなるだろう〟」（ＤＨＣ五・六三）

二つの首都

この千年の期間には地上に二つの首都があるだろう。アメリカ大陸にあるシオンと東大陸にある昔のエルサレムである。（イザヤ二・三）

地の塩

もし生きて福千年に招き入れられて福千年の祝福を受け継ぐとしたらそのためにはどんな聖徒になるべきですか？

初期の聖徒らは永遠の福音を受け入れたとき、地の塩となり人々に味をつける者となることを思い出させられた。（教義と聖約一〇一・三九）ブリガムヤング大管長は云われた。

すべての末日聖徒は教会に入るとき、新しき永遠の聖約に入る。彼らは悪魔の王国とこの世の王国を支持することを止めるよう聖約をする。彼らが新しき永遠の聖約に入るのは神の王国を支持するためであり他のいかなる王国を支持するためでもない。彼らは彼ら自身の救の真実性に基づいて悪と偽りの代りに真理と正義を支持し、またこの世の王国を建てる代りに神のみ国を建てることを天地の前でまた最も厳粛な方法で聖約する。（ブリガムヤングの講話一九四一年版一六〇頁英文）

塩は昔、主の民の間で防腐剤として、また動物のいけにえを捧げるときにも用いられた。（レビ二・一三、エゼキエル四三・二四、マルコ九・四九―五〇）塩は神と神の民との間になされた契約のしるしであった。（レビ二・一三、民数紀略一八・一九、歴代史略下一三・五）塩が人々を象徴するのに用いられるときは彼らが福音の真理を伝えることにより人々に影響を及ぼすことを意味し、それ故に人の味となることを意味している。しかし塩として象徴されている彼らがその味を失うならば彼らは神の王国から追い出されるであろう。（教義と聖約一〇一・四〇）いましめを破ることは他の人を感化する力を失いまたみたまを失う。そして最後には信仰をも否定するようになる。

自らを高める者

シオンの子供たちの中には彼らが結んだ聖約に対して罪をおかしミズリー州ジャクソン郡から追い出された者たちもいる。罪を犯すも懲罰が与えられる。

（同上一〇一・四一）

すなわち、およそ高ぶる者は卑くせられ、自ら卑くする者は高く挙げらるべし（四二節）

この啓示（一〇一章）の中で主は彼らは平和で繁栄しているときによく主に仕えなかった。それ故に彼らは現在のゆずりの地を失ったと仰せになっている。（六―八節）このようにして彼らは主のいましめ以上に彼ら自身を高めたのである。最も重大な罪の一つは自分自身の法律をつくることである。人が権威ある人々からの忠告をうけても聞くには及ばないと考えることは自分自身を高めることになる。（教義と聖約六三・五五）

低くせられる

自分自身を高める者はけんそんな心に欠ける。マーテンハリスに対する主の教えはおそらくけんそんなるために何が必要かを説明するのに役立った。モルモン経の金版を見るためにマーテンハリスに対して、もはや自己を高めることなくけんそんにならねばならぬと告げられた。

すなわち、見よ、われ彼に告ぐ。彼高ぶりていまだ充分にわが前にへり下らず、されど彼もしわが前にひれ伏して強き祈りと信仰とをもてまごころよりへり下らば、さらばわれその見んと願うものを一目見ることを許さん。（教義と聖約五・二四）

神のみ国に於いて偉大になるためのもう一つの要件はすべての人の僕となることである。（マルコ一〇・四三―四四）主のみ心に従うことは真のけんそんである。だからあなた方は神の力強い御手の下に自らを低くしなさい。ときがくれば神があなた方を高くして下さるであろう。（ペテロ第一の手紙五・六）

検討のために

神のみ国で偉大な者になるために必要ないくつかの特質についてあなたの家族と討論することは建設的であると考えますか？ 一家族として私たちは主の再臨に対してどのように準備することが出来ますか？ 偉大な系図計画に於いて母として妻として私たちはどのように神権を支持しますか？

社会

アルバータ・H・クリステンセン

地上でまた天でも

第一課――地上と天と

参考　地上でまた天でも（メルケゼデク神権者用手引　一九六七年）

目的

人類に影響を与える律法の一般的主題を考え、律法を守ることによって不変の結び固めが地球を天に結びつけることを強調する。

序

私たちの生活の中で律法の大切さはいくら強調してもしすぎることは多分ないであろう。というのは人間は常に律法（法則）というわくの中に存在していたのであるから。それは人生のあらゆる場においてまたあらゆる状態において作用するのである。自然も人生もその影響からきり離すことはできない。

一九六七年からメルケゼデク神権者用レッスン及び家族の夕べの手引は律法と、教会員としてまた一市民としての個人に対する律法の意義に焦点をあわせている。扶助協会の社会レッスンもこのテーマに関連して進められる。このレッスンは天と地の不変の交わりを考えることを強調しながら、人類の影響を与える律法の総括的な主題に関しての討論を求めるものである。

律法についての総括的な討論において次のことを考えることができる。(1)自然の法則と言われている宇宙と運営に関する神の律法。(2)個々の人間の完成への進歩に関する神の誡命。(3)国家の法律として実際の立法によりまた習慣により人間が定めた法律。

すべての律法には権能によって実施されるという要因が含まれている。その権能が創造主である神の御心であろうと、あるいは人間のつくった法律の域においては個人の良心が強いるもの、また民族、社会、または国家の権能であろうとにかかわらず。

自然の法則

私たちは自然の法則という言葉を宇宙の創造と動きに関する根本的な律法と関連づける。これは永遠なるものであるから全ての基本であり、不動なものなのである。「全宇宙は法則によって支配される」（ジョセフ・フィールディング・スミス著　二六頁）

……また誠にわれ汝らに告ぐ。彼は昔より万物に一つの律法（おきて）を与え、この律法によって万物は時と期に随い（したが）運行を止めざるなり。而してこの運行の道は定まりて動かず、正に天地の道にして地とすべての遊星に通ずるものなり。（教義と聖約八八章四二―四三節）

予言者ジョセフ・スミスは宇宙と、律法によるその運行に関して以下のように説明している。

……もし人間が智恵を得て成長し、国々を治める律法の節度を識別できるようになるなら、宇宙の支配者はそれ以上の力を持っているはずではないか？ 神は律法のない王国を所有すると考えられるだろうか？ 神は全ての善が生れる源泉である。また完全な英智であり、あたかも神の全能の言葉で動かされ、

神の指でさわられたかのように我々の頭上に壮麗と光輝を持って輝く力強い創造物と世界とを支配し取締ることは神の英智のみがなしうることを我々は認めるのである。以上のことが事実であるならば、それは律法によりなされ支配されるのである。何故ならば律法なしには全ては混乱に陥るに違いないからである。（ジョセフ・フィールディング・スミス編集「予言者ジョセフ・スミスの教え」五五頁）

律法は全ての根本であるから、存在の土台となり隅々まで浸透するという事実に関して、息子のヤコブと全てのことにおける相対の法則について話合っているニーファイ人の予言者リーハイの言葉を読んでみよう。

もしも律法がないと言うならばまた罪もないと言わずばなるまい。もしも罪がないと言うならば、また義もないと言わずばなるまい。しかして、もしも義がないならば幸福はないであろう。義も幸福もないならば、罰も不幸もないであろう。そして、もしもこれらのことがないならば神もまたないのである。従って、もし神がないならば我々もなくこの大地もない。何となればこれでは作用するものも作用せられるものもないから万物の創造ができるはずもなく、従って万物はことごとく消えうせていたに違いないからである。（第二ニーファイ二章一三節）

自然界の調和

自然界の法則が調和のうちに運営されているということは、私たちが住んでいる自然界を注意深く観察し、真剣に研究する人々には明らかである。何故なら神の家は秩序の家だからである。予言の結果をもたらすこの秩序と調和は、はかりしれない智力を持ち給う創造主を示しており、神の計画が固く実行されることを示している。

従って、自然が不調和で気まぐれなもののように見えるところは、法則を構成している全ての要因を私たちが理解していないからだと主張するのは当然ではないだろうか？ もし私たちが奇蹟を生ずる法則の全てを知り理解していたら、奇蹟というものも自然と同じように考えられないだろうか？ 全能の主は御自身の力で奇蹟を行うことができるが、しかし教会の忠実な会員は奇蹟の起らない場合試練のときには信仰に頼るのである。

また、自然の法則に反しているときには、それが意識的であろうと知らずにしていることであろうと、私たちは律法を犯した結果を経験するのである。

例一　火の力を無視して手を炎に近ずけるとやけどをする。

二　引力の法則に関する知識に欠けているとがけから落ちる。

アダムに啓示された

死ぬべき人間に与えられた最初の律法はアダムへの啓示によって与えられ、アダムはその律法を子孫に教えたのである。人間の受けた律法が地球上での経験と究極の運命との関係を明らかにする上で、霊的に非常に大切なものであることは次の聖句に示されている。

この故に、われ誠に汝らに告ぐ。われにかかわるすべては霊のことなり。われは何時たりとも、いまだ嘗て俗世のことにかかわる律法を与えたることなし。如何なる人にも、人の子らにも、わが造りし汝らの先祖アダムにも与えたることなし。（教義と聖約二九章三四節）

前記の聖句について、神の誡命は実に神の律法であり、これに従順に従うことによって人は自然の法則と人間に対する神の御心と一致できると言えないだろうか？ これについて次の近代の聖句が特に適切に表わしている。

そもそも創世の以前より天に於て定められたる一つの変らざる律法ありて、あらゆる祝福はこれに基くなり。すなわち、われら何にても神より祝福を受くるときは、この祝福の基く律法に従うによりて然るなり。（教義と聖約一三〇章二〇―二一節）

この変らざる律法の基である聖句と真実は私たちにとってあまりにも身近であるために、これがいかに真で基本的なものであるか、また毎日の行いの小さいことにまで応用できるかを悟り考えないのである。これらのことは私たちの人格に取入れたいと思うような資質を得るときにも応用できる。

クラス討論

1　誠実、親切、謙遜、上品、正直になり、他人に対する思いやりの気持を持つためにはどんな訓練が必要であるか？

2　寛容になるためにはどんな訓練が必要か？ それらの訓練をせずに自分を傷つけた人を赦すことができるか？

分別のある人は誰も利己的になりたいとは思わない。何故なら利己心は友人を、さらに愛する人さえも遠ざけてしまうし、また心から他人を愛する能力を奪ってしまうことを知っているからである。

無私の心のもととなる法則を守るのに持たねばならない資格は何であるか？

クラス討論

以上のように神の律法に従順に従うときうける個人的なまたはグループとして受ける祝福について討論しなさい。原因と結果、あるいはすべての行いに報

いを受けるというようなよく耳にする言葉は前述の近代の聖句に引用されている変らざる律法とどのように関係があるか？

クラスの出席者は次の実例と考えてみよう。

Aさん「あなたのようにピアノを弾けたら何てすばらしいだろうと思います。そうすれば夫が歌うとき伴奏しますわ。いつも音楽に関心を持っていますの」。

Bさん「あなた、本当にピアノを弾けたらなんて思っていらっしゃらないんでしょ？　もし本当にそう思っていらっしゃるのでしたら、とうに弾いているはずですわ。でも音楽家として必要な法則―つまり望みを持ち弾き方を学び、絶えず練習を続けていかなければなりませんよ」。

人間の律法

人間の律法というのは完全な者によって作られたものではないので、神の律法のように完全ではない。末日聖徒は公職には賢明で正しい人を選ぶよう、また個人の基本的権利を保証する法律を制定するよう勧告されている。（教義と聖約一〇一章七七節）

一般の政府や法律に関して信じているところを宣言するものとして次のように書かれている。

> われらは信ず……而して、すべての政府は公共の福利を保証するために、政府の判定に於てもっとも善く計画せられたるごとき法律を制定する権利を有す。されど、また同時に良心の自由を神聖に保つべきなり。（教義と聖約一三四章五節）

神の御心の影響

アダムの子孫の多くは神から与えられた律法に従わなかったにもかかわらず、神の律法の影響は人間が世代を通じて法律に制定した道徳律というようなもののなかに見受けられるのである。

予言者ジョセフ・スミスは次のように宣言している。

人類は前世で神から受けた最初の教えからはなれ、不従順によってそれらの教えに支配されることを拒んだと考えられる。従って人は自分の心にもっとも適した、または自分の立場にもっとも都合のよいと思われる律法を作った。しかし神が多かれ少かれ人に何かの影響を与えたことは信ずるにためらわないのである。何故なら前にのべたようにすべての義しく公平な律法は、多少の程度の差はあってもすべての善の源である神の影響を受けているのである。そして人は自分が智力を持っていると思い込んでいて、自分自身より優れた力の影響を認めようとしないが、しかし神の創造物の賢くまた大きな目的のため、善と幸福のため、神は人に分別のある健全な律法を制定するよう教えている。というのは人が神からはなれ、始めに天から御自身の声で神が与えた律法によって支配されることを拒んだのだから。（ジョセフ・フィールディング・スミス編集「Teachings of the Prophet Joseph Smith, p. 57）

地上でもまた天でも

この「地上でまた天でも」という言葉は私たちの心に地上と天の両方にある何か共通なものを提示する。このレッスンでは地上と天との聖約、つまり地上での生活と永遠とを結び固めるものとしてお互のために分ちあうものという意味でこの言葉を使っている。

何がこのきずな、または聖約を成立たせているか？　この意義ある結び固めを形成するものは何か？

地上で制定され、人の生得の選択の権利を尊重する人間の法律はこの地上と天の結び固めに貢献している。また、人の義に対する愛や、兄弟愛を育てる律法は自分より不幸な人々に関心を持ち、公平な自己犠牲を起させるのである。より良い人間になるよう努力させ、完全に向っての進歩を推進する律法、これら全ては地上と天とを結びつけるのに役立つのである。

末日聖徒は天で形ずくられ肉体の時代及び永遠を通して人間に福音として与えられたイエス・キリストの教えは、神の律法と一致して実施されることを知っている。福音は地上での生活と永遠の生活との聖約なのである。

クラス討論

聖約は約束を伴う。この聖約の中で神はどんな約束をしているか？　人類は不死不滅の約束を受けている。さらに個人的には、人間は日の栄の王国に付随する恵みと共に永遠の生命を約束されている。

この聖約の中で人はどんな約束をしているか？　人は福音の祝福がのべられている律法に従うことを約束している。

誠命も約束も共に私たちを永遠へと結びつけるのである。

特別に与えられた力

福音に関連しているのは、与えられた力と神権の権能を現世で行使することである。扶助協会の姉妹たちはその機能について、すでに学んでいる。私たちは神権の多くの恵みを知り、経験している。この権能の聖なる律法の結び固めの力によって、すでに世を去った家族や天の約束が私にとってより近いものとなったのである。結び固めの力について次のように書かれている。

> 人あるいはわれらが語るところを極めて大胆なる教理と思うものもあらん。すなわち記録をなしまたは地に於て結び而して天に於て結ぶ権能の教

理なり。さりながらこの世に於けるあらゆる時代に於て、何時にても主が何人にもまた何人たちにも実際の啓示により神権の時代を与えたまいしときには常にこの権能与えられたり。これを以て、何時にまれこれらの人々権能によりまた主の御名によりてこれを為し、また正しく忠実にこれを行ない。このことを適正かつ忠実に記録したるところは、大いなるエホバの定めたもう法令により天地の律法となりて何人もこれを無効とする能わざりき。（教義と聖約一二八章九節）

そもそもこの儀式の本質たるや、元より神権の権能に存するものにしてイエス・キリストの啓示によるなり。而してこの啓示に於ては、何にても汝の地に於て結ぶところは天に於ても結ばれ、何にても地に於て解くところは天に於ても解かるることを許されたり。（教義と聖約一二八章八節）

教会の大管長のみがこの聖なる神権の力の鍵を持っている。その働さや使用は神の勅令によって規制されている。

この結び固めに於ける至高者は、天と地両方の創造主、天への人間の弁護者である救主御自身である。そして救主は神の律法の具現である。この結び固めによって全ての人類はどれほど祝福を受けることであろうか？

討論のために

どのくらいの家族の会員が社会の法律を尊び、その保護と安全を感謝しているか？

宿題

あなたが持ちたい、または進歩したいと思う二、三の美徳を分析し、それらを取得するのにどんな訓練が必要か研究しなさい。これらの美徳を得るためにはっきり目標をきめ、長く続けることによってさらに努力しなさい。

社会

アルバタ・H・クリステンセン

地上でもまた天でも

第二課―王国の後継者

参考 地上でもまた天でも（メルケゼデク神権者用手引、一九六七年第一七、一八課）

目的 福音の儀式の総体的な見解、及びバプテスマの儀式は幼児の救いに必ずしもなくてはならぬものではないことを指摘する。

序

ある講演会の始まる直前と直後に開かれた次の会話はこのレッスン及び次の二つのレッスンに特に関連がある。

友人A「何故今日私がこの講演を聞きにきたのかはっきりわかりません。だって今日話されることについてみんなわかっていますもの」。

友人B（講演が終ってから）「講演者が質問したとき何故あなたは答えなかったのですか？　今日のお話について、あなたはなんでも知っていると思っていましたわ」。

友人A「ええ、私もわかっているつもりだったのですが具体的にはっきり答えるとなると全然わかりませんでした」。

友人B「そのことについて知っているということと、事実を実際に知っているということとは違うという意味ですか？」

友人A「その通りです。今日来て本当によかったと思いますわ」。

扶助協会の姉妹たちは一般に神権保持者によって行われる教会の儀式の祝福と目的をよく知っている。がしかし、聖典の根拠やこれら儀式の全貌についてはしばしばあまり知らないのである。全ての儀式は人類の幸福と祝福のために計画された神の御心のあらわれであるが、全ての儀式が人類の救いに関して平等な重要性を有しているわけではない。

このレッスンでは救いの計画を簡単に説明し、この福音の計画に関係のあるいくつかの儀式について考えてみよう。

福音の儀式

聖典の中で儀式についてのべている場合は、一般には次に示されているように律法と神が人間の救いのために制定した必要条件を意味している。「而してわれらの誓約はかくの如し。すなわちわれら、ことごとく主の法令を履み行うべし、と」。

このレッスンでは儀式という言葉は人間の祝福と救いのために神権の権能によって執り行われる儀式をさすのである。全ての福音の儀式の本質的な特色は、神権の権能によって執り行なわれなければならないことである。というのは、儀式を執り行う者は主に代って行う力と機能を与えられていなければならないからである。神権保持者はその儀式がイエス・キリストの御名によって、また聖なるメルケゼデク神権の権能によって行われるとのべるときにはこの必要条件を証拠ずけるのである。

日の栄の王国へ入り、また昇栄を得るのになくてならぬ福音の儀式は救いの儀式として知られている。救いにはどうしても必要というものではないが祝福し、勇気ずけるための儀式は按手任命の儀式として知られている。

クラス討論

次にあげる教会の儀式を何故またどこで分類するか？

1　幼児の祝福と命名

2　病人の癒し
3　祝福師の祝福
4　教会の責任を与えるための按手任命式
5　個々のバプテスマ
6　神殿の儀式

人類に与えられる救い

天父なる神と私たちとの関係について予言者ジョセフ・スミスは次のように言っている。

神は御自身が智力によりすぐれておられるので御自分が霊と栄光の中にいるのをみて人間が神のように進歩する特権を持てるように律法を制定されるのを善しとされた。私たちと神との関係は私たちを知識において進歩させるものである。神は智力に劣っている者が神と共に高く上げられ、そして栄光に栄光を加えて、霊界で彼等を救うために必要な知識と力と栄光と智を持つことができるように教え導くために律法を制定する力を持ち給うのである」。

神の霊の子として私たちは前世で神と共に住んでいた。私たちは神が栄光にみち崇高なお方で不死不滅と永遠の生命を持ち給うお方であることを知っていたのである。

また神が救いの計画の創始者であり、霊の子たちが救われるように律法や道を備えて下さったお方であることを知っていた。

神の計画は自由意志の律法に基ずいて「前世での準備、地上での試しの時期、死とよばれる肉と霊との分離の状態、すべての人の復活、神の律法全部に従順だった霊の子が永遠の生命を受けることを要求する」。

この天父の計画は霊の子の一人が御子として地上に生れ、償いのための犠牲となることを要求したのである。「このように神から不死不滅の力を受けた」のである。

キリスト定められた贖い主

私たちがナザレのイエスとして知っているお方は前世においてキリストになるべく選ばれた方であり、全人類の罪の償いをして下さる御子であるという事実は末日聖徒はよく知っていることである。主は人間の中での伝道中人が永遠の生命を得るためにはどのように生きるべきかについて完全な模範を示して下さった。生れる前から受けついでいる神の力によって、神の全ての誡命を守り、福音の原則を教え、儀式を執り行い、病人を癒し、奇蹟を行ったことを知っている。

ときどき次のような質問が聞かれる。「もし神が救いの計画の創始者であるなら、なぜ私たちは福音をキリストの福音というのだろうか?「何故ならキリストは天父の救いの計画を受け入れ支持し、そしてそれを自分のものとして信ずる全ての人々にとっての永遠の救いの創始者となったのである。この救いの計画はキリストの福音として知られている」以上の事実に関して聖句には次のようにある。

……過去現在未来を通じて、救いは身代りの贖罪をなしもう全能の主なるキリストの血によって与えられることを

……(モーサヤ書三章一八節)

また「キリスト・イエス」には

……父なる神は御子を通して創造の御わざを成したもうた。それで御子は、父なる神のみこころと命令もしくはみことばを実施する執行者となりたもうた。……イエス・キリストが天地創造のときに働きたもうた役割、すなわちイエス・キリストを「創り主」と人が呼ぶのが当然であるほど目立っていちじるしい役割のことは多くの聖典に述べてある。(ジェームス・E・タルメッジ著「基督・イエス」英文三三頁)

このように「キリストは神として御父の力を持ち給うことがわかる。キリストもまた御父の霊の子達を救い、高くあげるのに必要なことは何でもできるのである。従ってキリストはこの世の創造主と贖い主の両方になったのである。そして創造も贖いもこれなしには救いはないという程の二つの大切なことなのである。

神の王国はこのような者の国

幼児の救いに絶対なくてはならないものという訳ではないが、幼児の命名と祝福の儀式は教会の記録上その身元をはっきりさせ後に残す意味で特別重要なものであり、またその子と両親の両方にとって祝福なのである。

1　幼児の祝福はその親にとってどのような関係があるか?

2　幼児の祝福の儀式は家族を互に結びつけるのにどのように役立つか?

3　子供を正しく導くという親の責任に関してこの儀式は親にどのように感銘を与えるか?

古代の使徒たちも明かに幼児の祝福の儀式について関心を持っていた。というのは、彼らは自分の子供を祝福してもらおうとイエスのところへつれてきた者たちをとがめたのだから。

それを見てイエスは憤り、彼らに言われた、「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である。(マルコ伝十章一四節)

そして彼らを抱き、手をその上において祝福された。(マルコ伝十章一六節)

またモルモン経には次の印象的な聖句が書かれている。

……とかれらに言って涙を流したもうた。これは群集が親しく見て証をするところであ

る。イエスはそれからかれらの小さい子供たちを一人一人近よせてこれに祝福を与え、かれらのために御父に祈りたもうた。（ニーファイ第三書一七章二一節）

なくてはならぬ大切な儀式

救いのための儀式は日の栄の王国の昇栄の位を得るのに欠くべからざるものであり、バプテスマは重要な儀式であるから物事を理解できる人は誰でもこの聖なる儀式の恩恵なしにはこの王国に救われることはできない。このことによって死者のためのバプテスマが必要となったのである。

討論のために

以上のことは神の義の律法をどのように立証するか？

この重要な儀式は幼くして召されたために物事を理解できる年令に至らなかった子供にどのように関係があるか？

日の栄の王国の後継者

古代及び近代の啓示は幼くして死んだ子供たち（従って物事を理解する年令に達しなかった場合）は自動的に日の栄の王国の後継者となり、バプテスマの儀式をする必要がないことを親たちに保証している。

主はジョセフ・スミスに次のように啓示している。

人のあらゆる霊は、太初に罪なきものなりき。而して神は堕落より人を贖いたもうたるにより、人はみな再び幼児の有様となり、神の前に罪なしとなりぬ。（教義と聖約九三章三八節）

されど見よ、われ汝らに告ぐ。かの幼き小児らは、わが生みたる独子によりて世の始めより贖わるるなり。それ故に、幼き小児らは罪を犯すこと能わず。サタンは、幼き小児ら成長してわが前に責任を知り始むる年までこれを試むる能力なければなり。（教義と聖約二九章四六～四七節）

このように神の霊の子は神の御前を去り、死ぬべき身となり罪を免れ、物事を判断できる年令に達するまで悔改めの必要がないのである。例えこの清らかなとき死んだとしても自動的に天父のいらっしゃる日の栄の王国へ帰る資格を得るのである。

しかしながら、「この様な人は神の王国へ入るための必要条件を全て満たすまで」この王国で昇栄を得ることはないのである。（ジョセフ・フィールディング・スミス副管長が次のようにいわれているこの栄えある教義を知ることはなんと力強いなぐさめになることだろうか。

主は公平であり、単に祝福を受ける前に死んでしまったからという理由だけで祝福を奪い取るようなことはなさらない。**小さな子供がただ幼くして死んだという理由のみで次の世で昇栄の祝福を受ける特権を奪うことは明らかに不公平である。**戦争でこれらの祝福を奪われ、命を失った若者にも同じことが言える。主は全ての霊をその人の心の意向によって裁くのである。（物事を判断できる年令に達しなかった）子供のために私たちのなすべきことはただ親との結び固めをすることである。主が必要な全ての儀式を行って下さったのであるから、このような子供はバプテスマを受ける必要がないのである。

幼くして死んだ子供はいかなる祝福も奪い取られることはないのである。復活の後霊が完全に一人前に成長すると、もし彼らがこの世にとどまっていれば受けることができたはずの全ての祝福を受ける資格が与えられる。（ジョセフ・フィールディング・スミス著、Doctrines of Salvation 二・五四）

子供を死によって奪われ、これまでその子を永遠に失ったと信じていた親にとってはこの教義の意義が本当によく理解できるのである。

実話

R姉妹は二人の子供をバプテスマを受ける前に幼くしてなくした親である。彼女の悲しみはとても言葉でなぐさめられるようなものではなかった。ある日二人の末日聖徒の宣教師が彼女の家を訪ねた。この二人の宣教師が真のメッセージを持って、善悪の判断のできる年に達する前に亡くなった幼児は日の栄の王国に救われるからバプテスマの必要がないと話したとき、彼女は熱心に聖典中の根拠を求めた。

一人の宣教師が聖典をあけて主の言葉を示した。「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない神の国はこのような者の国である」（マルコ伝一〇・一四）

もっとよく説明するために宣教師はモルモン経を開いた。次のなぐさめの言葉は彼女にとってなんとすばらしいものであったことか！「よく言っておく。お前たちは罪を犯すことができ罪の責任を負うことができる者に悔改めとバプテスマとを教えよ。すなわち、親たる者に悔改めてバプテスマを受けなくてはならない、またその幼児のようにへりくだらなくてはならないと教えよ。かれらがそうするならばその幼児と共に救われるに違いない。しかしその幼児には悔改めもバプテスマも一切不要である。バプテスマは人がすでに悔改めたことを証明し、また確かめるため、また罪の赦しを得るための神の命令を守るために施すものである。（モロナイ書八章一〇～一一節）

……幼児は悔改めをすることができない。それであるから、神の純粋な恵みを幼児が受けな

いと信ずることは恐しい悪事である。幼児はみな神の深い憐みによって救われている。（モロナイ書八章一九節）

……私の愛する子よ、私はおまえたちが幼児にバプテスマを施すことはかえって甚しく神を嘲弄しているだけであることを知っている。（モロナイ書八章九節）

R姉妹は現在教会の熱心な会員であり、彼女のすなおな心の扉はこの大切な福音の真理に開かれたのである。

次のジョセフ・フィールディング・スミス副管長の言葉は多くの家族を同様に力ずけるメッセージである。

精神に欠陥のある者、つまり物事を理解できない人々は救い主の贖いによって幼児と同様救われる者の中に分類される。このような人々にはバプテスマは不必要である。

(Doctrines of Salvation 二・五五—五六)

もしバプテスマが罪の赦しのための儀式であるなら罪のないナザレのイエスがなぜバプテスマをお受けになったのかと疑問に思う人があるかもしれない。これはバプテスマのヨハネの洗礼によってバプテスマをお受けになったという事実から、他の意義があったものという事が明らかである。次のレッスンでこの救いの儀式のこれらの見解について考えてみよう。

結論

キリストの福音は全人類への祝福の福音であり、究極の完成のために天父の霊の子に平和と栄光と進歩をもたらすものである。不可分の要因である救いの儀式を行い、予任された誠命を守るその程度によってこの完全という事は得られるのである。

信仰を持つのに充分な程謙遜で、理解し、知り、従うための霊的な眼を発達させる人は何と祝福される事であろうか！

討論のために

レッスン中にでてくる質問

家庭での課題

できたら一九六七年度メルケゼデク神権者用手引「地上でもまた天でも」を読みなさい。

あなたの家族で八才になってもまだバプテスマを受けていない子供があるか調べなさい。

救い主が子供達を愛している事を彼等が知るよう助けなさい。

子供、又は青年の時受ける儀式を理解し、大切に思うよう教えなさい。

ホームメーキング

ホームメーキング教育を通しての発達

セレスティア・J・テーラー

賢こい使い方はしあわせな結果をもたらします。

目標 予算がいかに経済問題の解決に役立つ案内となるかを示すこと。

序文

聖句は、金を愛することはすべての悪の根である。と教えています。この教えの妥当性を否定することなしに、注意深いかしこい支出とその使い方は人間の善のための仕事でありしかも現にそうであると言わなくてはなりません。なぜ家族が節約をして賢明な消費をしなくてはならないか変わらない理由があります。若い家族であろうと引退した家族であろうとこの理由はあてはまります。その理由は人はその金や能力や勢力や彼の持つものを減らしたり空にしないで得られるものをなんでも見境いなしに使うことは出来ないという論ぱくできない法に深く根ざしています。すべての家族は家族の福祉に決定的な役割を持つところの目標、目的を持っています。その達成は予算—家族がその目標目的を達成するものに役立つ収支の管理運営の家族毎の組織—をたてて利用することによって最良に遂げられる注意深い収支計画、運営を必要とします。

支出計画をたてる

よく計画された予算による家族の収支管理は生活のための支出や正しい選択の必要を示すことによって家族員各々のうちにその責任に対する理解を発達させます。それは専門家による計画に厳密に従ったりむづかしい簿記をおぼえることではありません。家族は自身の予算を計画しそれを家族の必要、興味、要求を満たすように形成するのです。

予算をたてる際ほとんどの家族にとってこの四つの課程がためになるでしょう。

1 家族の収入を見積もること

2 固定支出を計算すること

3 臨時支出もふくめて毎日の支出を計画すること

4 貯蓄と緊急基金を計画すること

家族の収入を見積る

家族の収入は、賃金、給料、手数料、アルバイト料などの手取り金額や年金、賃貸収入、配当金、利子、入るかもしれない追加収入を含みます。

討論

平均の最高収入より最低収入を基にして計画することはなぜ賢明といえるでしょうか？

固定支出を計算する

どの家族も月毎、年毎、一期毎、季節毎、毎年とかで払う時期の決まっている支出があります。それらの支出は払う月にリストにしてあげておくべきです。一度に払えないものは、合計金額を何回かにわけて貯え備えておかなくてはなりません。

固定支出は以下のものを含むでしょう。

1　什分の一と教会寄付

2　税金。これには、国税、県民税、市民税、固定資産税、その他があります。

3　家賃や家の維持費。これには抵当費もふくみます。

4　負債。家具や銀行ローンその他いろいろの財政上の契約をふくみます。

5　保険料。生命保険、健康保険、障害保険、負債保険火災保険、その他

毎日の支出を計画する

日々の生活の支出はかしこい消費を実践する機会を毎日提供します。これに含まれる原則的な項目は以下の通りです。

1　食物。飲物や簡単な食べものを含めて、家や外での食事すべての支出です。

2　家事のため。補給品、修繕、改善、施設、クリーニング、掃除その他の費用です。

3　被服。衣服、材料、維持費です。

4　車及び交通費。ガソリン　オイル、修繕、維持、他交通費です。

5　医療費。医師、歯科医にかかる費用、救急薬品、保険に入れられない支出を含みます。

6　おこづかい。これは家族の支出計画で重要な一部です。なぜなら各家族員に独立の気持と計画に加わることの興味を与えるからです。

7　家族の発達とリクリエーション。創造的、芸術的発達（音楽レッスンその他）休暇、スポーツ、他の余暇活動のための用具を含みます。

8　地方性、気候、その他の特殊性が考えられます。つけ加えたり、ひいたりすることがあるでしょう。

討論

ジョンとメアリーは収入をすべて使ってしまいなにも貯えません。予算計画によってどう改善できるか討論しなさい。

貯畜と緊急基金を計画する

どの家族も収支計画において貯畜のために備えなくてはなりません。確実な貯畜は家族が安寧の気持を保つのに役立ちます。緊急支出、教育、伝道、引退、休暇、その他の長期目標のために、出来る時に多くたくわえなくてはなりません。貯畜は注意深い計画の結果であり、現在持つ望みの、あるものを放棄することです。

討論

1　サムとルースは毎日の生活で失望と不満を感ずるほど多く貯えています。このようなやり方はなぜかしこくないことでしょう?

2　支出の要求が重すぎて収入すべてで固定生活支出をまかなうに充分でないため、貯畜は実際的でもないし出来ないという場合があります。その解決法を討論しなさい。

支出計画のバランスをとること

賢明な計画と家族全員の良心的な努力が予算計画を定着成功させるのに必要とされますが、それが達成された時には家族の収入、支出、貯畜にバランスが生れ、家族員みんなに永続する利益と達成の祝福をもたらすでしょう。

あなた自身の予算をたてる時、次のことを心に留めて下さい。

1　各家族がその特別な状況にあう自身の計画をたてるべきです。

2　計画は簡単に実際的にたてるべきです。

3　計画は現実的でなくてはなりません。過度の望みや内輪の見積りはいけません。

4　計画は注意深く良心的に実行しなくてはなりません。

簡単な家族予算計画

月	収入見積		固定支出					日々の支出						貯畜	緊急
	控除前	手取り	什分の一	税金	家賃及び固定支出	負債	保険	食物	家事費	被服費	車及び交通費	医療費	おこづかい	レクリエーションその他	
1月															
2月															

12月から3月まで，上の2ケ月と同様に記録する。
始めに毎日の記録をして，その合計を上の形で記録する。（ルーズリーフノートが適当だろう）

ホームメーキング

セレスティア・J・テクラー

ホームメーキング教育を通しての発達

若い夫婦から隠退した夫婦までの家族予算

目標　賢こい財政計画はすべての年令層、すべての環境において役立つことを示す。

ノート　この課の資料、原則は目標を変更せずに世界の各地域でその文化、生活にあわせる必要があるでしょう。

序

一家族の生活発展の中で発展していくための一つ一つの段階は次にくる成功の段階のすべてに直接の影響を持っていることは明らかです。おそらくそのうちでもっとも重要なのは最初のこの段階でしょう。〝ヤングマリーズ〟と呼ばれる結婚して間もない若い二人がこの大切な生活発展の第一段階を始めます。隠退という最後の段階の成功はほとんど完全にこれら若い夫婦によってたてられる長期計画にかかっています。特に財政計画に関しては確かにそうであり、この課ではそのことについて学ぼうと思います。

ヤングマリーズ

共同生活の始めに、その夫婦は将来――実に彼らが打建てたいと願う家族の完全な建設を決定する調整と計画をたてなくてはなりません。これは簡単なことではありません。というのは花婿と花嫁は彼らのどんな予想からしても、二人が全く同一の背景からくるということは実際にはめったにないことなのです。しかしその相違はもし彼らが注意深い計画と互いの協力によってよく調和したら、事実、力のみなもとになることができるのです。

討論

事例研究A

トムとマーガレットは結婚生活を始めました。トムは立派な農場の未来に発展の可能性のある地位を持っていて彼らの経済の見込みはよいものです。どこに住むかを計画するとき、彼らは簡単に必要な道具を備えつけるだけの経済的でしかも気持のよい地味なアパートにすみたいと決め、それと共に、将来の希望と願いを実現できる計画をたてます。この計画の成功は自己訓練と自制のプログラムによると彼らは考えています。さしあたっての要求の多くは彼らが負債をしなくてよいところまで切詰められなくてはならないでしょう。彼らは将来を保障する保険計画にお金を投じます。そして家をふくめる将来の必要物のために貯蓄の計画もたてます。彼らはこの目的のために規則的にいくらかの額をとっておきます。

このような計画をたてるときの得策を討論しなさい。経済安定をはかるのに自己訓練と自制の良い点は何でしょう？ 若い人々が結婚して自身の経済責任をうけて彼らの方法のなかで生活できるよう準備における両親の責任はどんなことでしょう？

事例研究B

テッドとジャンスも結婚生活を始めました。彼らは注意深い支出計画を何も持っていません。彼らの予算というのはたんに、収入をすでになされている支出契約にあわせて分配するだけのことです。貯蓄やその他将来のための計画をなんらたてることをせずに、そのかわり彼らは収入と契約した責任の間に起こる食い違いを埋めるために借金をする才能に頼らなくてはなりません。

このような生活の落し穴は何でしょう。この先見と計画の欠如からくる避け難い結果は悲惨であり家族の財政建設の完全な崩壊を意味することにもなるのです。貧しい財政運営、浪費、収入以上の生活からおきる金銭問題は家族内の口論や争いのもっとも重大な原因となりときには離婚にまでなります。新家庭を始めるときに、夫と妻が得たいと思う目標を計画することは大切です。その目標を達成しようといっしょに働くことは多くの満足をもたらすでしょう。はっきりと限定された目標は、その目標達成のために結婚生活の初期に経済的犠牲をつくる刺戟を与えるでしょう。結婚したての若い夫婦が早くから家庭のために貯蓄を始めようとするなら、彼らは望みを得ようとして計画したり働いたりしない人々よりその目標を得るためのはるかによい機会を持ちます。若い夫婦やその他の人々だれにとっても消費計画の〝理想的な予算〟というものはないのです。先月の課で私たちは、それぞれの家族は自身の財政問題解決の方法を決める予算という形でそれぞれの家族財政計画を考え発展させなくてはならないということについて学びました。若いカップルとして賢こくありなさい。そして確立された家族のグループとしても賢こくありなさい。先見と計画の欠如から起こる誤まりを防ぐようつとめなさい。

特別な節約の実行

家族が予算内で生活を促進するために行える特別なことがらがいくつかあります。それは国々によって違っています。たとえばある国で賢明なやり方である品物の大量購入は住宅、気候状態、その他の要素で貯蔵が実際的でないところでは実行できないでしょう。アメリカ合衆国においては、食料品店で広告された特価品を週毎に買うことによって実際に節約をしている人々が多いでしょう。そう実行したことによって、ある紳士は一年に三百ドルの貯えを記録しました。スカンジナビアの国々ではアフターシーズンや休みのあとの衣類のセールで家族は衣類の購入の節約ができます。店は一年のある時期に家具や衣類、寝具、白物のセールをします。賢こい買い手はこれらの時期に必要なものを買う計画をたてるでしょう。小さな果物は豊富で、多くは買わなくても森へ行ってひろってくることができるかもしれません。りんごはたくさんあります。これらの果物をとっておいてジャムやゼリーやアップルソースをつくることによっても節約はできます。

（12頁に続く）

図書案内

教義と聖約
高価なる真珠
モルモン経　上質革製合本　一一〇〇円

教義と聖約
高価なる真珠　合本……三〇〇円

モルモン経（新約）……一八〇円
信仰箇条の研究……三三〇円
基督・イエス……三〇〇円
末日聖徒イエス・キリスト教会略史……一一〇円
モルモンとは（新版）……一五〇円
総合聖句の手引……一五〇円
メルケゼデク神権、教師と生徒用
神権とあなた……四五〇円
私たちの生きた福音……二五〇円
神の王国……二三〇円
アロン神権者用学科課程……一五〇円
アロン神権のなかの祭司……一八五円
回復された神の教会……一〇〇円
神と人……二〇〇円
家庭に於ける神権の発揚……一五〇円
モルモン経の新研究……三三〇円
日本系図探求要覧……一一五円
扶助協会手引……一五〇円
求道者教育法……一六〇円
モルモンストーリー……一、〇〇〇円

日曜学校用

モルモン経物語……一五〇円
旧約聖書物語……一五〇円
福音の実践……二〇〇円
我等の標準聖典……二〇〇円
古代の使徒……一五〇円
教義と聖約の教え……二〇〇円
福音の紹介……一七〇円
完成への道……一〇〇円
宗教と生活……一五〇円
奇しきみわざ（合本）……二七〇円
〃（下）……一七〇円
家督権の祝福……一〇〇円
家族の昇栄……二〇〇円
シオン山の救い手たち……二〇〇円
レッスンの手引……六〇円

ＭＩＡ用

ＭＩＡの手引……一二〇円
我らは信じる……二〇〇円
我らは生きる……一二〇円
我らは奉仕する……一五〇円
よりよいあなた……一七〇円
生活の目標……一五〇円
今日の十誡……二五〇円
エンサインローレルの手引……一五〇円
演説が上手になる法……一五〇円

ロールブック

ＭＩＡ……一〇〇円
扶助協会……一〇〇円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌集（新版）……四〇〇円
〃（小）……三〇〇円
リクリエーション歌集……四〇〇円

その他ブックカバーなど

モルモン経カバー……二〇〇円
教義と聖約カバー……二〇〇円
信仰箇条の研究用カバー……二〇〇円
聖餐カップ（一箱）……二五〇円
ブレッドトレイ（プラスチック）……一、〇八〇円
ウオータートレイ（プラスチック）……二、五二〇円
ＬＤＳピン……一〇〇円
モルモンバッヂ……一五〇円
テンプルバインダー（二六六）……三〇〇円

図書の購入は支部長会に申し出てください

支部所在地

北海道地方部

旭　川　旭川市8条5丁目
ＭＩＡ集会所　旭川公会堂
電話（0166—2—1545）

室　蘭　室蘭市幸町89
電話（0143—2—7054）

小　樽　小樽市富岡町1—35
電話（0134—2—8224）

札　幌　札幌市南20条西16丁目
電話（0122—56—7175）

東中央地方部

群　馬　高崎市並榎町275
電話（0272—22—7121）

甲　府　甲府市中央3丁目12—2
電話（0552—3—2409）

松　本　松本市開智1—1—6

新　潟　新潟市中大畑町557
電話（0252—22—8660）

仙　台　仙台市光禅寺通り28
電話（0222—25—0897）

東京中央　東京都港区北青山3—6—4
電話（03—400—3307）

東京北　東京都中野区江原町1—8—14
電話（03—953—8244）

東京東　東京都江戸川区西小岩5—8—6
電話（03—658—7310）

東京南　東京都大田区南千束町2—25—11
電話（03—729—6311）

東京西　東京都武蔵野市吉祥寺東町1—7—7
電話（0422—22—6764）

山　形　山形市七日町4—12—23
電話（02362—3—3380）

横　浜　横浜市港北区篠原町29
電話（045—40—8772）

西中央地方部

阿倍野　大阪市阿倍野区阪南町中1—11—8
電話（06—623—4315）

福　岡　福岡市浄水町46
電話（092—52—8653）

広　島　広島市高須2—7—29
電話（0822—71—5309）

金　沢　金沢市兼六元町3—8
電話（0762—21—2131）

京　都　京都市左京区下鴨松原町44

名古屋　名古屋市昭和区北山町3—41
電話（052—731—4210）

西ノ宮　兵庫県西ノ宮市仁川町4—54
電話（0798—51—0141）

岡　町　大阪府豊中市岡町北2—18
電話（068—52—1236）

岡　山　岡山市学南町1—13—11
電話（0862—52—3560）

三ノ宮　神戸市灘区篠原本町4—35
電話（078—86—2602）

柳　井　山口県柳井市今市391

沖縄地方部

普天間　沖縄宜野湾市野嵩区328

那　覇　沖縄那覇市崇元寺町1—128—20
電話（3—1620）

建築部事務所　東京都港区北青山3—6—4
電話（400—4080）

（誤りのある支部の支部長はご一報ください）

聖徒の道

一九六七年九月一日発行
振替口座　東京一六二二六番
発行人兼編集人　アドニー・Y・小松
発行所　東京都港区南麻布五丁目八番十
末日聖徒イエス・キリスト教会
電話　四七三—一六一三
印刷所　株式会社三五堂

定価七十円
一年予約七〇〇円（申込は支部長まで）